



Freediving Rules
for
Competitions and Records
Ver 14.0 – January 2015

フリーダイビング競技及び記録規則
Ver14.0-J – May 2016

Copyright© - AIDA International - 2015

Copyright© - AIDA Japan - 2016

目次

1. はじめに	3
2. 種目／競技会の認定	5
3. 一般規則	9
4. 安全	19
5. スタティック (STA)	25
6. ダイナミック・ウイズフィン／ウイズアウトフィン(DYN/DNF)	28
7. コンスタントウエイト・ウイズフィン／ウイズアウトフィン (CWT/CNF)...	31
8. フリーイマージョン	35
9. バリアブルウエイト(VWT).....	38
10. ノーリミッツ(NLT).....	40
11. ペナルティ.....	41
12. プロテスト (異議申し立て)	44
13. 競技審判団.....	46
14. 世界選手権 (ワールドチャンピオンシップ)	48
用語集	52

1. はじめに

1.1 AIDA インターナショナルの主な使命のひとつは、最新の記録とランキングリストを管理するためフリーダイビングの各種目での記録と競技を公認することにある。競技規則は、この公認にとってだけでなく、測定と比較が可能で公平かつ安全なパフォーマンスにとっても必須なものであるため、以下に規定する。（「AIDA 競技規則」または単に「規則」と呼ぶ）

1.2 この文書は AIDA インターナショナルが公認する全ての競技会に適用され、その結果は AIDA インターナショナル・ランキングリストに記載される。

1.3 この文書は、以下の章から構成されている。

- 概要
- 国際大会
- 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）
- 競技会における世界記録
- 世界記録アテンプト

国際大会の場合は、以下の章を適用する。

1. 概要
2. 国際大会
3. （競技会における世界記録）

世界選手権の場合は、以下の章を適用する。

1. 概要
2. 国際大会
3. 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）
4. （競技会における世界記録）

世界記録アテンプトの場合は、以下の章を適用する。

1. 概要
2. 世界記録アテンプト

1.4 スレッド種目。バリアブルウェイト及びノーリミッツはアテンプト競技としてのみ実施され、AIDA インターナショナルはこれらの種目が競技の一部として行われていると思われる競技会を公認しない。

1.5 公式タイム。AIDA 競技会の公式タイムは、競技会の場所により調整されたユニバーサルタイム（協定世界時）（「UTC」）とする。UTC は様々なウェブサイト（例：<http://www.timeanddate.com/worldclock/>）で入手可能で、インターネット接続されたアップル社製デバイス（例：MacBook, iPhone, iPad）でも検索可能である。

1.6 技術資料。競技会と記録のための AIDA 技術資料（「技術資料」）はこれらの規則に含まれている。技術資料は、規則より頻繁にアップデートされる必要性のある技術的項目をカバーする。従って AIDA インターナショナル議会は随時技術資料を修正できる（AIDA インターナショナル議会は年 1 回技術資料の一部を修正する予定）。最新の規則及び技術資料は AIDA ウェブサイトで入手可能である。

2. 種目／競技会の認定

2.1 種目。AIDA インターナショナルは以下の種目を公認する。

- スタティック (STA) : 水面下で息を出来るだけ長く止める競技。
- ダイナミック・ウィズアウトフィン (DNF) : 完全に水面下に潜り、どれだけ長い距離を泳げるかを競う競技。推進力を生む道具 (フィン等) の使用は禁止されている。
- ダイナミック・ウィズフィン (DYN) : 水面下をどれだけ長く泳げるかを競う競技。フィンまたはモノフィン以外の推進力を生む道具の使用は禁止されている。
- コンスタントウエイト・ウィズアウトフィン (CNF) : あらかじめ申告された深度まで、自身の腕と足の推進力のみを使って到達することを競う競技。推進力を得るあらゆる道具の使用及び許可された範囲以外でロープを手繰ることは禁止されている。
- コンスタントウエイト・ウィズフィン (CWT) : あらかじめ申告された深度まで、フィンまたはモノフィン、及び自身の腕と脚を使って到達することを競う競技。フィンまたはモノフィン以外の推進力を得るあらゆる道具の使用及びロープを手繰ることは禁止されている。
- フリーイマージョン (FIM) : あらかじめ申告された深度まで、ロープを手繰って到達することを競う競技。推進力を得るあらゆる道具の使用は禁止されている。
- バリアブルウエイト (VWT) : あらかじめ申告された深度まで、重り (スレッド) の重量を利用して到達することを競う競技。自らの力によって浮上する必要があるが、フィンまたはモノフィンの利用及びロープを手繰る行為は認められる。
- ノーリミッツ (NLT) : あらかじめ申請された深度まで、バラスト加重されたスレッドを利用して潜降・浮上をする競技。潜降と浮上に関して道具使用の制限はない (例: バルーン、カウンターバランスシステム、バラスト) 。

2.2 記録

2.2.1 男女の記録は 2.1 項に記載した各種目で別々に扱われる。

2.2.2 条件によるカテゴリーの細別は行わない。(湖、海、高度、氷の下等)

2.2.3 競技者の記録が世界記録を超え、全ての必要な手順 (本規則に記載されているもの) が正しくとられた場合、その競技者は世界記録保持者となり、レコードリストに加えられる。同じ競技で 1 人以上の競技者が世界記録を超えた場合、これらの規則の条項により、どの競技者が世界記録保持者になるか決められる。

2.2.4 AIDA 競技カレンダーに記載されるのは、AIDA インターナショナル世界記録アテンプト及び公式「AIDA インターナショナル」競技会のみとし、AIDA インターナショナルから競技、世界／大陸記録の公認資格が付与される。公式の AIDA 国際大会での記録のみが、AIDA ランキングリストに記載される (全てのランキングリストの基準が満たされている場合のみ) 。

2.2.5 大陸記録（コンチネンタルレコード）

2.2.5.1 AIDA インターナショナルは、6 大陸（ヨーロッパ・北アメリカ・南アメリカ・アフリカ・アジア・オセアニア）における大陸記録（コンチネンタルレコード）を認定する。

2.2.5.2 大陸記録の認定は大会における世界記録認定に準ずる。ただし、ドーピングテストの必要はなく、それぞれの世界記録は自動的に大陸記録として認定される。

2.2.5.3 大陸記録のアテンプトは認めない。

2.3 競技会

2.3.1 スポンサー、ランキングリスト。競技会が公式「AIDA インターナショナル」競技会として認められるためには、競技会が AIDA ナショナルによって主催されるか、AIDA ナショナルまたは AIDA インターナショナルの後援を受けていなければならない。AIDA インターナショナルは、AIDA ナショナルが存在しない国においてのみ直接競技会を公認する。AIDA 競技カレンダーには AIDA 国際大会のみが記載される。主催者がこれらの規則の全てのランキングリストの規準を満たしている公式 AIDA 国際大会からの結果のみが、AIDA ランキングリストに記載される。

2.3.2 AIDA インターナショナルは、次の 2 種の競技会を公認する。

1. 世界選手権：AIDA インターナショナルの後援により組織される。
2. 国際大会：AIDA ナショナルが主催または後援する競技会。複数の国からの参加者を含む。

2.3.3 全ての AIDA 競技会には申請が必要である。競技会の申請に必要な手順及び内容は技術資料（2 項）に記載している。

2.3.4 予定しているあらゆるパフォーマンスに対しての規制事項（最大深度など）は、AIDA の国際競技会開催が発表される前に、主催者から競技者及び AIDA インターナショナルに通知されていなければならない。天候またはその他の条件により、事前に発表された深度での実施が危険である場合を除き、競技会開催発表後のパフォーマンスの規制は許可されない。

2.3.5 競技会は、AIDA 競技会として公認されるために、これらの競技規則に従わなければならない。AIDA インターナショナル理事会は、その競技会が条件を満たしているかどうかについて判断を下すことができる。

2.3.6 以下に掲げる条件を全て満たす場合は、競技会の中での記録を世界記録と認めることができる。

- 少なくとも2人以上の公式 AIDA インターナショナルジャッジが立ち合い、そのうち1名以上はマネージングジャッジ（レベル B）以上であること。また、そのジャッジの少なくとも1名（マネージングジャッジ/レベル B 以上）は競技者とは異なる国籍であること。
- 公式ビデオが撮影されていること。
- ドーピングテストが実施されていること
- 深度競技では2名のジャッジが水中にいること。

そのパフォーマンスが現世界記録を超えた場合、その場に立ち合っていたジャッジは、それが「ドーピングテスト結果が出るまでの暫定世界記録」であることを、公式ビデオの確認後、直ちに宣言する。

2.3.7 AIDA インターナショナル・ランキングリストに掲載させるため、全ての AIDA 公認競技会の結果は、競技会最終了から7日以内に AIDA インターナショナル・CARS システムにアップロードされなければならない。その際、受信した確認メール内のリンクに従うこと。主催者は、期限までに競技結果を AIDA インターナショナルに送付する責任を有する。ヘッドジャッジは、正確性確認のためこれらの結果の送付前にチェックする責任を有する。

2.3.8 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

2.3.8.1 AIDA インターナショナル議会は、世界選手権に際しジャッジを選挙により選出する。

2.3.8.2 AIDA インターナショナル理事会は、AIDA インターナショナル議会によるジャッジの選出後、その中から審判長と副審判長を選出する。

2.3.8.3 世界選手権では、審判団は6人以上の AIDA インターナショナルジャッジ（シニアジャッジ/レベル D 以上）で構成され、さらにそのうち1人以上がマネージングジャッジ（レベル B）以上でなければならない。

2.3.8.4 世界選手権においてはパフォーマンスの規制は行なわれない。

2.3.9 国際大会

2.3.9.1 AIDA インターナショナルのジャッジ統括責任者及び AIDA インターナショナルスポーツオフィサーは、主催者が AIDA カレンダーに競技会の発表を送付した後、提案されたジャッジ候補者を含む国際大会の審判団を承認しなければならない。

2.3.9.2 国際大会では、審判団は2人以上の AIDA インターナショナルジャッジで構成される。

2.3.9.3 予備

2.3.9.4 主催者は、希望すれば、AIDA インターナショナルにジャッジの欠員補充を求めることができる。

2.3.10 大陸／国内／地域／地区／都市選手権

2.3.10.1 主催者は、初心者やファンへのハードルを低くするために、メインイベントの他に、別の選手権を追加することができる。ただし、フリーダイビングの普及を目的とし、AIDA ナショナルの承諾を得たものに限る。AIDA インターナショナルランキングでの公平性のために、競技者に対する条件は全て同じでなければならない。

2.3.11 AIDA ナショナルが関与しない競技会。AIDA ナショナルが無い国、または AIDA ナショナルが何らかの理由で協力が出来ない場合であっても、個人やクラブで AIDA 国際大会を開催することができる。その場合、AIDA インターナショナル理事会への直接の申請を必要とし、競技会は AIDA インターナショナルに直接管理される。

3. 一般規則

3.1 概要

3.1.1 いかなる AIDA 競技会への参加も、それによって各競技者はこれら規則の約款全てを受け入れたものとする。

3.1.2 各競技者は AIDA ナショナルのメンバーでなければならない。

3.1.3 WADA アンチドーピング基準及び AIDA インターナショナルにより採用された全ての基準が、全ての AIDA 競技会及び記録アテンプトに適用されるものとする。テストは競技会や記録アテンプトの有無に関わらず、通年かつ抜き打ちで行なわれる。テストを受けることを拒否した場合、当該競技者はドーピングポジティブ（陽性）と判断される。全ての世界選手権における優勝者または優勝チーム、及び AIDA 世界記録を記録した全ての競技者は、必ず検査を受けていなければならない。

3.1.4 各競技者が競技前の 60 分間に圧縮ガスの吸引をすることを禁止する。

3.1.5 WADA または AIDA の禁止する全てのパフォーマンスを向上させる製品の消費または使用は、明確に禁止されている。AIDA ジャッジは疑念があるときはアンチドーピングテスト、またはその他の調査手段を要請する権力を有する。

3.1.6 全ての競技者は 18 歳以上（保護者の同意を得ている場合は 16 歳以上）でなければならない。

3.1.7.1 各競技者は自分が代表する国の有効なパスポート（または国籍を表す国民 ID カード）を所持し、当該国は国連に承認されていないなければならない。

3.1.7.2 特定の国のパスポートを所持して AIDA の競技会に参加した競技者は、AIDA への申請と承認がなければ、その所属する国を変更することは出来ない。国籍を変更したい場合は、AIDA インターナショナルに対して前年の 10 月 31 日までに申請を行なわなければならない。国籍の変更が認められるのは、1 年おきとする。国籍の変更に関する更なる詳細な情報は、AIDA インターナショナルのウェブサイトで見ることが出来る。

3.1.8 全ての競技者は、フリーダイビングを行なうことに問題なしと判断された英語記載の診断書を準備しなければならない【日本国内の大会においては、英語記載である必要は無い】。診断書の有効期限は 1 年以内とし、連絡先が併記された医師のサインを必要とする。競技者自身が医師であっても、自分の診断書への署名は有効とは認められない。

3.1.9 「3.1.6 項、3.1.7 項、3.1.8 項」については、競技者受付登録時に確認されるものとする。

3.1.10 全ての競技者は、治療中の病気・怪我がある場合、大会前に審判及び大会の医師に報告しなければならない。大会の医師は、競技への参加がその病気や怪我の経過に危険を及ぼすと判断した場合、競技者の大会参加を制限する権利を有する。

3.1.11 競技者は、オフィシャルトップ（以下 OT）の 60 分前までに審判団の指定した場所にいないといけない。

3.1.12 競技者及びそのコーチは、競技者の外部の状況を計測する電子機器（深度計など）を使用してもよいが、競技者の内部の状況を計測する機器（心拍数モニター、酸素濃度計など）を使用してはならない。

3.1.13 全ての種目において、EQEX（イコライズイクステンション）ツールその他、圧平衡を助けるための機器やシステムの使用を禁止する。

3.1.14 ジャッジによりブラックアウトと判断された全ての競技者は、その競技において失格となり、あるいはジャッジの決定によりそれ以上のペナルティ（他の競技への出場停止など）が科せられる。審判団は、追加のペナルティの可能性を決定する前に大会の医師に意見を求めることができる。

3.1.14.1 以下に掲げる兆候が見られた場合「ブラックアウト」と判定される。

- 心停止
- 呼吸停止
- 意識の喪失
- 意識はあるが、気道（鼻と口）を水中から出した姿勢を維持できない

3.1.14.2 前述の兆候が疑わしい場合、競技者に有利な判定を行い、そのパフォーマンスは有効とされる。

3.1.15 競技者は、何らかの問題が起きない限り、競技中に誰かの補助を受けたり、触られたりしてはならない。もしそれがあった場合は失格となるが、それが競技中のスタッフ（ジャッジ、カメラマン、セーフティダイバーなど）の補助に該当しない接触である場合は失格とならない。スタティック競技中の位置修正や安全確認を目的としたコーチ、パートナー、セーフティダイバーによる接触は認められる（5.2.3 及び 5.2.8 参照）。CWT、CNF、FIM 競技で、競技者が気道を水中に沈める前であれば、その競技者のコーチは競技者に接触し補助することができ、ペナルティは科せられない。

3.1.16 個人的なフロートの使用は、審判団に禁止されていない限り全ての種目で許可される。審判団はそのフロートが判定、安全、ビデオ撮影の妨げとなる場合、禁止することができる。

3.1.17 サーフェイスプロトコル（浮上後動作手順）

3.1.17.1 競技者は水面へ上がった後、サーフェイスプロトコル（以下「SP」という）を完全に行なわなければならない。

3.1.17.2 競技者は、水面浮上後 15 秒以内に SP を行い、完了させなければならない。SP は、審判団または大会スタッフからの指示を受けることなく行うものとする。SP は、競技者が自らの手で顔面の装備を外し始めるところから始まる。顔面の装備をつけていない場合は、ジャッジに対し手による OK サインを出した時点を SP のスタートとする。

3.1.17.3 SP は次の手順で行なう。

1. 顔面のすべての装備（マスク、ゴーグル、ノーズクリップ）を取り外す。
2. ジャッジに向かって手で「OK サイン」を 1 回示す。
3. 声を出して「I'm OK」または「I am OK」と審判に向かって 1 回言う。

競技者は、以上の 3 つの動作を「上記の順番で」水面浮上後 15 秒以内で行わなければならない。競技者は、SP 開始前や完了後に声を発したり、目に見える動作をすることについては何度行っても構わない。しかしながら SP が開始した時点から、SP 以外の全ての余分な動作は失格（「SP 失敗」）と見なされる。SP は競技者が声による OK を示した時点で完了と見なされる。全ての AIDA 国際大会及び記録アテンプトでは、言葉の合図は上で規定した通り英語で行わなければならない。

3.1.18 競技者は、浮上後、鼻と口を水面より上に保持しなければならない。競技者の浮上後 30 秒以上経過し、メインジャッジが色付きカードによって判定を下すまで、競技者は誰にも触れてはならず、誰も競技者に触れてはならない。ただし、競技中にスタッフ（ジャッジ、カメラマン、セーフティダイバーなど）による補助に該当しない接触は失格の対象とはならない。

3.1.19 競技終了時、ジャッジは競技の有効判定を直ちに各競技者に伝えるものとする。この判定は最終判定であるが、深度競技においてはジャッジの目視可能範囲での判定である（潜降中のロープタッチ等についての判定は含まれない）。ジャッジは色付きカードにより判定を示す。判定は、競技者の浮上後 30 秒以上経過した後に出されるものとする。

カードの色は以下を意味する。

- 白： OK。ペナルティなし。
- 黄： OK だが、ペナルティあり。
- 赤： 失格。

判定が黄または赤の場合、競技者はその判定理由を知る権利がある。競技の継続を妨げない限り、判定の直後に知ることが可能である。また、プロテスト（異議申立）に先立つ結果発表において告げられる場合もある。

3.1.20 主催者は、競技者が AIDA 競技会に参加する条件としてパブリシティリリース（すなわち、競技者の名前やイメージを使用する権利を主催者に許諾すること）への署名を要求してはならない。

3.1.21 オープナー。主催者は競技会において、スタッフとジャッジの予行の為にオープナーを設置することが出来る。オープナーの記録は AIDA ランキングリストには掲載されない。

3.2 国際大会

3.2.1 競技会は、個人戦あるいはチーム戦で、以下の種目をひとつまたはそれ以上を実施するものをいう。

- スタティック (STA)
- ダイナミック・ウィズフィンおよび/またはウィズアウトフィン (DYN/DNF)
- コンスタントウエイト・ウィズフィンおよび/またはウィズアウトフィン (CWT/CNF)
- フリーイマージョン (FIM)

3.2.2 すべての競技種目で、予選及び決勝、あるいは、決勝のみの大会運営ができる。予選及び決勝を行う場合、決勝の選手数は、ジャッジと大会主催者が会場設定の状況を考慮し、協議のうえ決定する。その数は2人以上、12人以下とする。

3.2.3 主催者は、制御不能な自然環境（風、波、海流、雨など）を除き、競技者に対し、できる限り同じ条件の環境を提供しなければならない。

3.2.4 予備

3.2.5 各競技のポイントは以下のとおりとする。

- スタティック競技：1秒=0.2ポイント
- 深度競技：1メートル=1ポイント
- ダイナミック競技：1メートル=0.5ポイント

深度競技においては、小数点以下は切り捨てとする。ダイナミック競技では、0.5ポイント、スタティック競技では0.2ポイント単位（いずれも切り捨て）で計算することとする。

計算例：

5分4秒 スタティック= 60.8ポイント

55.5m コンスタントウエイト = 55.0ポイント

97.8m ダイナミック= 48.5ポイント

3.2.6 勝者の決定方法

3.2.6.1 個人戦での勝者は、最もポイント数の高かった競技者とする。予選と決勝が行われる場合は、決勝の結果のみで決定される。

3.2.6.2 団体戦での勝者は、決勝が終わった時点で最もポイント数の高かったチーム（全てのメンバーの全ての競技のポイントの合計）とする。団体戦で同点となった場合、次に高いポジションが他のチームに与えられることなく、同点のチームがポジションを共有する（例：2チームが最高得点100ポイントで、次に得点の高いチームが90ポイントであれば、100ポイントの2チームが1位を共有し、90ポイントのチームは3位となる）。

3.2.6.3 個人戦で同点となった場合、申告（AP）と結果（RP）の差が最小の競技者がその競技の優勝者となる。

3.2.6.4 予選と決勝が行われる場合は、その記録は別々の結果として扱われ、それぞれの記録が AIDA 世界ランキングに反映される。

3.2.6.5 主催者は AIDA インターナショナルに対し、技術資料に規定された料金と支払スケジュールに従って、コンペティションフィーを支払わなければならない。

3.2.7 競技者またはチームメンバーが、他の競技者を妨害または他の競技者のパフォーマンスを妨げた場合、そのいかなる行為または行動も、ジャッジ/審判団の裁量によってペナルティが科せられ、妨害された競技者は再スタートが認められる。

3.2.8 ジャッジは、競技者やチームメンバーが以下に掲げる行為を行った場合、警告、ペナルティまたは失格とすることができる。

- 規則に従わない行為。
- 審判団、主催者、チームキャプテン、その他の競技者、観衆または報道関係者に従わない、または干渉する行為。
- 競技の安全性を妨げまたは干渉する行為。
- 大会を通じて 3 回警告を受けた場合は、その大会を通して失格扱いとなる。また AIDA インターナショナルから追加の処分が科される可能性がある。

3.2.9 予備

3.2.10 主催者は、審判団から判定が下されるまで、競技者が水面に浮上する様子を 1 台以上のカメラで撮影しなければならない。この映像は、ブラックアウトやサーフェイスプロトコルなどへのプロテスト（異議申立）に関して、ジャッジの判定のために使用されるが、最終的にはジャッジの判定が優先される。世界記録の場合についての規定は、3.4 項を参照のこと。主催者は、競技の開始前に全てのビデオ装置をテストする機会を審判団に提供しなければならない。

3.2.11 現在の AIDA 世界記録を上回る記録が 1 つ以上出た場合、1 番の記録を出した競技者がドーピングテストで失格になった場合に備えて、1 番以外の競技者もドーピングテストを行う。ただし、深度競技において競技会中に現在の世界記録を同ポイントで上回っている競技者が複数いた場合、全員が記録として認定される。

3.2.12 競技者は、予選と決勝でその申告を変更することができる。主催者は、競技者がその申告（AP）を変更できる時刻の制限を、あらかじめ告知しなければならない。

3.2.13 競技の開始時間をオフィシャルトップといい、以下の文では OT あるいは OT 時間と表記する。

3.2.14 カウントダウンは競技進行係が英語で行うが、世界選手権の場合は、自動化されたアナウンスシステムによって行うこともできる。カウントダウン要領： 2'00, 1'30, 1'00, 30", 20", 10", 5", 4", 3", 2", 1", オフィシャルトップ, 1", 2", 3", 4", 5", 6", 7", 8", 9", 10", 20", 25", 26", 27", 28", 29", 30", スタートキャンセル]

3.2.15 競技者の気道が水没した時をパフォーマンスのスタートとする。競技スタートは1度のみ許される。OTの後の全ての気道の水没はパフォーマンスの開始とみなされる。

3.2.16 ジャッジは、自らが判定をしている競技会に競技者として出場することはできない。

3.2.16.1 立会医師は、自らが立会医師として参加する競技会に、競技者又はジャッジとして参加できない。

3.2.17 (競技者のパフォーマンスを邪魔しないため) カメラ及びカメラマンは競技ゾーンへの立ち入りが禁止されるが、主催者が許可した特定のメディアゾーンには立ち入りが許される。主催者は、設置しない正当な理由がない限り、メディアゾーンを設置しなければならない。

3.2.18 声援は他の選手が競技中や待機中であっても許される。

3.2.19 放送機器などを通じて競技の解説を会場に流すことは許される。パフォーマンス終了後にタイム、距離、深度等の結果を解説とともに発表することも許される。ただし、3.2.14に記載された時間(2分間のカウントダウン開始からOTまで)においては、これらのアナウンスは禁止する。

3.2.20 世界記録ステータスのAIDA競技会における競技者の最低数について。世界記録ステータスのAIDA競技会を開催するには、最低7人の競技者を競技会に登録しなければならない。当該競技会におけるパフォーマンスをAIDA世界記録とみなすためには、最低5人の競技者の結果を提出しなければならない。これは、最少の7人の競技者のうち2人が(例えば病気によって)パフォーマンスを行わない場合でも世界記録の承認が可能となることを意味する。主催者が、競技会で5人の競技者がパフォーマンスを行うかどうか不確実な場合、主催者はその大会を記録アテンプトとして扱わなければならない(AIDAランキングリスト【JAPANランキングリスト】には記載されないが、世界記録及び国内記録【日本記録】としては有効となる)。

3.2.21 コンペティションフィー。AIDAコンペティションフィーについては技術資料(2項)に規定されている。

3.3 世界選手権

3.3.1 AIDAインターナショナル世界選手権は、次に掲げる競技種目の1つ以上を含む個人戦または団体戦による競技会である。

- スタティック (STA)
- ダイナミック・ウィズフィン/ウィズアウトフィン (DYN/DNF)
- コンスタントウエイト・ウィズフィン/ウィズアウトフィン (CWT/CNF)
- フリーイマージョン (FIM)

3.3.2 個人戦世界選手権は、「室内競技種目(スタティック、ダイナミック・ウィズフィンおよび/またはウィズアウトフィン)」、及び、「屋外競技種目(コンスタントウエイト・ウィズフィンおよび/またはウィズアウトフィン、フリーイマージョン)」を、区別して個別の選手権として開催できるものとする。また、団体戦世界選手権においては、主要三種目、「コンスタントウエイト・ウィズフィン」、「ダイナミック・ウィズフィン」、「スタティック」すべてを実施し、総合ポイントでランキングするものとする。

3.3.3 予備

3.3.4 国ごとの性別及び種目別競技者数は、主催者及び AIDA インターナショナルにより決定され、AIDA からその国のナショナルメンバーへ通達される。

3.3.4.1 団体戦世界選手権においては、国ごとの競技者数は、男女各 3 名と補欠男女各 1 名とする。ただし、AIDA インターナショナルの決定により変更することができる。男女別々のチームを出場させない国は、男女混合チームを出場させられる。混合チームは、男性部門でのみ競技可能となる。交代要員は、チームキャプテンからの要請と大会医師の合意により、医学的な理由からのみ競技に参加可能とする。これは競技会で 1 回のみ可能である。

3.3.4.2 予備

3.3.5 AIDA インターナショナル世界選手権においては、AIDA インターナショナルと主催者が選手登録に対して責任を有する。AIDA ナショナルは当該競技会に参加する競技者を選定できるが、目標基準（例：パフォーマンス）と非差別的基準のみに基づくものとする。その他の団体（例：国内の潜水協会）が当該選定に参加することはできない。AIDA ナショナルがない国では、AIDA インターナショナルは別の機関にこれらの選択を管理させるか、当該競技者による競技を直接許可することができる（AIDA の決定する条件に依る）。代表選考に関する情報は、AIDA の要請により AIDA ナショナルから AIDA インターナショナルへ送付されなければならない。

3.3.6 世界選手権に参加しようとする競技者は、その所属国に AIDA ナショナルがある場合は、そのメンバーでなければならない。AIDA ナショナルが無い場合は、その競技者は同じ国の他の競技者と共に、AIDA インターナショナルに対し、特別招待を要請することができる。

3.3.7 AIDA インターナショナル世界選手権に参加できるのは、大会の 2 週間前までに年会費を支払った AIDA ナショナルに所属している選手のみとする。その他の国、または公式 AIDA ナショナルによる年会費が未払いで特別招待が許可されている場合、代表競技者を参加させるために、1 か国につき 150 ユーロの「仮許可」代を AIDA インターナショナル（または AIDA を代表する審判団）へ支払わなければならない。

3.3.8 AIDA ナショナル各国は、イベントコミッティに国を代表して参加するチームキャプテンを指名する。

3.3.9 チームキャプテンは、運営上の安全性を高めるため、予定している申告を到着した日、選手登録または最初のイベントコミッティの際に確認しなければならない。

3.3.10 世界選手権において、ジャッジは自分と同じ国籍の競技者の判定ができない。

3.3.11 公式競技の OT は、前日のイベントコミッティ開始までに決定する。競技の順番は、申告の数字順または抽選で決定する。

3.4 競技会における世界記録

3.4.1 世界記録を上回るパフォーマンス

3.4.1.1 AIDA 競技会における全ての AIDA 世界記録で、最低でも 2 人の AIDA ジャッジ（レベル E かそれ以上）がパフォーマンスの審判を行い、最低でもそれらのうち 1 人のジャッジがマネージングジャッジ（レベル B）かそれ以上でなければならない。最低でも 1 人のマネージングジャッジ（レベル B）かそれ以上の者が、競技者と異なる国籍でなければならない。深度競技では、申告が現世界記録を上回っている場合、当該のジャッジ両者が水中にいないなければならない。

3.4.1.2 競技会の間、現行の（世界）記録を上回ったパフォーマンスが、「ドーピングテストの結果が出るまでの暫定世界記録」として扱われるためには、全ての競技規則を守り、またそのパフォーマンスの判定がホワイトカードによるものであることが必要である。ペナルティを伴うパフォーマンスは、競技会の順位においては有効だが、世界記録としては公認されない。

3.4.1.3 主催者はドーピングキットを準備してドーピングテストを行い、有効なビデオ映像を準備しなければならない。

有効なビデオ映像とは、以下をいう。

- ビデオ映像は、OT の 30 秒前から審判団が判定を下す（すなわち、水面浮上後 30 秒以上でカードが示される）まで、アテンプト全体をカバーしている。
- 競技者の水面への浮上が写されている。
- 競技者の顔が完全に見えて認識できる。
- 完全に SP が見え、それがカメラの方を向いている。
- 競技者がジャッジの判定が出るまで誰にも触れられていないことが明確に見てとれる。
- 深度競技においては、世界記録更新が認定されるためにはボトムカメラによる撮影が必須である。

3.4.1.4 同じ競技会と種目において 2 人以上の競技者が同じ記録を達成した場合、各競技者がホワイトカードを受けることを条件に、新世界記録を共有するものとする。AIDA は現世界記録パフォーマンスを超えるその次のパフォーマンスも、また競技者がホワイトカードを受けることを条件に承認する。承認のために、3.5 項に明記されている通り、全ての競技者は同じ手順（ドーピングテストその他）を踏まなければならない。

3.4.1.5 審判長は、下の 3.5.12 項と 3.5.14 項に規定されている通り、世界記録パフォーマンス毎に AIDA インターナショナルへビデオと文書を提出しなければならない。

3.4.2 競技結果が大陸記録を上回っている場合は、3.4 項と 3.5 項の手続きが適用される。ただし、3.5.15 のドーピングテスト及びそれに伴う 3.5.11 の手続きは適用されない。

3.4.3 競技会で世界記録が出た場合、審判団は記録の詳細を表す詳しい報告書（ワードまたは同様のフォーマット）を書く。1 枚の複写を主催者へ、もう 1 枚をビデオデータとともに文書をアーカイブする AIDA インターナショナルスポーツオフィサーへ送付しなければならない。

3.5 世界記録アテンプト

3.5.1 競技者は、自らが代表する国の AIDA ナショナルのメンバーでなければならない。

3.5.2 AIDA ナショナルの無い国に属する競技者は、AIDA インターナショナルに対し申請をしなければならない。AIDA インターナショナルは、その競技者の実際のレベル、トレーニングにおける安全対策の状況などを確認する。

3.5.3 申請書は記録アテンプト期間の開始の 6 週間前までに、AIDA ナショナル(または 3.5.2 項の場合は競技者) により AIDA インターナショナルへ提出されなければならない。以下を含むファイルが同封されていなければならない。

- アテンプトを行う競技者のプロフィール
- フリーダイビングの実施に支障がない旨明記した医師の診断書
- アテンプトに関わる方法、機材、及びメンバーのレポート
- 競技者自身が上記の申請書の提出を行うのは、その競技者が AIDA ナショナルの無い国に属する場合のみとする。

3.5.4 ジャッジ (審判)

3.5.4.1 AIDA インターナショナルのジャッジ統括責任者は、スポーツオフィサーと共に、2 名の AIDA インターナショナルジャッジを指名する。ジャッジは、できるだけアテンプト開催地域の近くの者を選ぶ。AIDA 世界記録アテンプトでは、マネージングジャッジ (レベル B) 以上の審判長、及びシニアジャッジ (レベル D) 以上のセカンドジャッジがいなければならない。

3.5.4.2 アテンプトの主催者は、ジャッジに関わる交通費、宿泊費、食事代を含む全ての費用を負担しなければならない。交通費とチケットは、ジャッジ人選の決定後、10 日以内にジャッジの元へ届かなければならない。

3.5.4.3 世界記録アテンプトでは、ジャッジの拘束期間は 1 イベントで最大でも 9 日間までとする。それ以上に延長する場合は、担当ジャッジ及び AIDA ジャッジ統括責任者及び/又は AIDA スポーツオフィサーによる承認を必要とする。アテンプトの実施は 1 日 1 回のみとする。スレッド競技の場合は、特にその安全性を確実にしなければならない。プール競技では、アテンプトの実施の回数に制限は設けない。ただし必要とされた場合、ジャッジはその回数を決定する権限を持つ。

3.5.5 主催者は、携わる人の安全を含むそのアテンプトに全体について、単独で責任を負う。

3.5.6 AIDA ナショナルは、アテンプトの 2 日前までに、その競技者が全ての必要条件を満たしていることをファックスまたは E メールで AIDA インターナショナルに報告しなければならない。AIDA ナショナルの無い国の競技者は、2 人の立会人の承認を得た報告書を提出するものとする。AIDA インターナショナルは、これらの報告内容を受理するか却下するかの権限を持つ。

3.5.7 適用されている AIDA インターナショナルのルールと、アテンプト実施会場の国の法律・規則とに相容れない項目がある場合、AIDA ナショナル (又は競技者自身) は、ルールの例外的適用を申請しなければならない。AIDA インターナショナルは、申請内容を調査し、その申請を承認するか否かを決定する権限を持つ。

3.5.8 主催者は、ジャッジが必要な施設が全て自由に使えるよう便宜を図らなければならない。

3.5.9 ジャッジは、必要に応じ、機能性の高い安全装置への変更について主催者に進言することができる。

3.5.10 指名された AIDA インターナショナルジャッジは記録アテンプトに関し、下記に該当する場合に、その中止を提言する権利を持つ。

- 競技規則が遵守されていないとき。
- アテンプトに参加している全ての人の安全が十分に確保されていないと判断したとき。
- 運営が正常になされていないと判断したとき。

ジャッジがこの権利を行使する場合は、決定後、できるだけ速やかに主催者及び AIDA インターナショナルのジャッジ統括責任者、スポーツオフィサーに直接文面で通知しなければならない。

3.5.11 主催者は、3.1.1 項に基づき、アテンプトに先立って、ドーピングテスト費用として 500 ユーロ（または技術資料に明記されている場合はその額）を現地に到着したジャッジに現金で支払わなければならない。これは現在の市場価格による国内通貨、またはユーロでも構わない。

3.5.12 AIDA 世界記録のためのビデオ要件は技術資料（5 項）に規定されている。

3.5.13 3.1.17 項によりジャッジによる判定が下され、ビデオ映像を確認後、最終的な判定（ドーピングテストを除く）が決定される。

3.5.14 ジャッジは、アテンプトの結果の詳細を示したレポートを提出する（正副 2 通）。1 通は主催者に提出し、もう 1 通は AIDA インターナショナルスポーツオフィサーにアーカイブのためのビデオ映像とともに提出する。技術資料（5 項）では、当該報告書に網羅されるべき項目を特定している。

3.5.15 技術資料に明記されたドーピングテストの手順は、全ての世界記録アテンプトに適用される。

3.6 サーフェイスビデオレビュー。これらの規則で要求されるその他全てのビデオレビューに加え、審判団は以下のパフォーマンスについてサーフェイスビデオをレビューしなければならない。

(i)全ての AIDA 世界記録アテンプト

(ii)競技会において AIDA 世界記録を超える全てのパフォーマンス

(iii)全ての AIDA 世界選手権での、性別、種目別のトップファイブパフォーマンス

4. 安全

4.1 概要

4.1.1 AIDA セーフティーガイドラインは、AIDA インターナショナルが公認・後援する全ての大会において適用される。

4.1.2 予備

4.1.3 セーフティーラニヤード。セーフティーラニヤードは全ての深度パフォーマンスで義務付けられている。ラニヤード要件は技術資料（3 項）に規定されている。ラニヤードは、競技者の安全性を守るために必要な場合を除き、パフォーマンス中に競技者によって外されてはならない。競技者の安全性以外の何らかの理由でラニヤードを外した場合は、ペナルティの対象となる。

4.1.4 競技深度計は、セーフティーラニヤードを装着した手首と反対側に着けるものとする。

4.1.5 全ての深度競技においては、医師、救護隊員若しくは蘇生術（EMT）を専門とする消防士の配置が義務付けられている。プール競技においては、プロ救護員またはそれ以上に相当する者の配置が適切である。遠隔地であるために治療が遅れる可能性があることを考慮に入れた計画を立てなければならない。医療サポートスタッフは、責務を果たすため、必要な医療機器を装備していなければならない。吸入用酸素、及び応急手当用の機器は必須である。深度競技においては、十分な蘇生法を施すための機器を事前に準備しておかなければならない。

4.1.6 主催者は、前述のリストバンドを用いて、選手と同時に浮上することなく、容易に選手の緊急浮上を行うために必要な機器を装備したセーフティーダイバーを確保（準備、配置）しなければならない。スクーバダイバーは、カウンターバランスシステムとは関係なく、スクーバダイバーが選手もしくは競技ロープ、またはその両方を浮上させるための追加のリフトバックシステムを携帯しなければならない。カウンターバランスシステムを採用していても、予備の浮上手段として、追加のシステム（完全装備で水上待機しているスクーバダイバー、プラットフォーム上にある競技ロープの手動引き上げ役など）は必要である。AIDA 及び審判団は、大会開始前に、カウンターバランス及びその他の安全装置の検査、実演を求めることがある。

4.1.7 競技会及びアテンプトの両方において、セーフティーフリーダイバーのフロントスノーケルの使用はプール競技・深度競技共に禁止する。

4.2 国際大会

4.2.1 セーフティーフリーダイバーの人数は、ローテーションを行うのに十分でなければならない。競技ゾーン 1 か所につき、少なくとも 2 名以上のセーフティーダイバーを必要とする。ウォームアップゾーンには 2 人以上のセーフティーダイバーを必要とする。他の AIDA 文書（安全手順など）がこれらの問題を指摘している場合、本項をアップデートしなければならない。

4.3 世界選手権

4.3.1 深度競技において、水中に配置する全てのスクーバダイバーは、その役割に応じたスキルを証明できるものと、必要な機材を持っていなければならない。セーフティースクーバダイバーは、世界的に認められた認定機関（PADI、NAUI、IANTD、TDI、CMASあるいはこれらと同等の機関）の規則を遵守しなければならない。セーフティーフリーダイバーは、20m（80m以上の競技の場合は30m）まで、楽に繰り返し潜れる能力を持っていなければならない。主催者は、これらのレベルを確認する責任を負う。全てのセーフティダイバーは、大会前にAIDAインターナショナルに承認・検証されなければならない。主催者は、安全に関わる全てのスタッフが、その役割を果たすための能力を備えていることを確かめなければならない。

4.3.2 主催者は公式競技に先立ち、参加する全ての人の安全を確認するために、安全担当者と共に、救助活動の予行演習をしなければならない。全ての担当者が自分の役割を果たせるよう、この予行演習には1名以上のジャッジ、またはジャッジが指名した者が立ち会うこととする。予行演習の実施後に安全担当チームに加わった者に対しては、ジャッジを介してその役割を明確にする。安全担当の新メンバーは、安全に関するスキルや知識を、予行演習を体験したメンバーと同等もしくはそれ以上に持っていなければならない（実際の救助活動、あるいは救助の訓練の経験を持つ者でなければならない）。経験豊富な競技者であっても、セーフティーフリーダイバーのためのトレーニングプログラムの受講経験や実際の競技会でのセーフティ経験がなければ、セーフティとしての役割が無条件で果たせるとは見なされない。

4.3.3 水深80m以上の競技を行う場合には、水深30mでのトラブルへの対応ができる能力のあるセーフティーフリーダイバーの配置を勧告する。セーフティーフリーダイバーは水深30mにいる必要はないが、主催者は水深20m以上でのトラブルへの対応が可能なよう、計画を立てることを勧告する。

4.3.4 酸素は、ダイビング後の吸入のために、水面、及び水深5mでの呼吸が可能な装置でなければならない。競技者が酸素を水中で呼吸している間、セーフティーフリーダイバーまたはスクーバダイバーが競技者を監視する。競技者は、水中での酸素吸入のリスクを理解した認定スクーバダイバーでなければ、水中で酸素を吸入することは許されない。それ以外の競技者は、ダイビング後、水面もしくは陸上で酸素を吸入するものとする。水深80m以上のダイビング後の酸素吸入は、必ず実施しなければならない。

4.4 予備

4.5 世界記録アテンプト

4.5.1 全てのルールに4.1項が適用される。

4.5.2 明記された以外の全ての安全装置は、アテンプトの1か月前までにAIDAインターナショナルへ提出されなければならない。そのアテンプトに指名されたジャッジは、文書で示された情報に加え、更なる情報を要求する権利を持つ。

4.5.2.1 蘇生器具は、使用可能な状態で競技者の近くにななければならない。

4.5.3 非常事態の場合は、競技者を指定の専門医療機関に搬送しなければならない。この医療機関は、アテンプトの前にあらかじめ公表されていなければならない。

4.5.4 深度競技においては、2名以上のセーフティフリーダイバーを配置しなければならない。プール競技においては、1名以上のセーフティダイバーを配置しなければならない。ダイナミック競技においては、競技者がプールの壁に近いコースを使用する場合は、ジャッジと共にプールサイドを歩く配置でも可とする。セーフティフリーダイバーは、必要とされる場合はいつでも水に入って競技者の救助ができるように準備をしておかなければならない。ダイナミック競技においては、25mを超える長さのプールを使用し、セーフティフリーダイバーがプール内を併泳する場合は、2名以上の配置が求められる。

4.6 2014年安全性強化事項

4.6.1 申告の制限

4.6.1.1 主催者は、競技者が過去3か月間に達成し、主催者に証明した深度の最大10m超までに申告を制限できる。【達成期間や制限深度を主催者の判断で変更する事も可】

4.6.1.2 申告の制限は全ての選手に等しく適用されなければならない。主催者（と審判長）は制限を遵守するために、制限深度を超えた申告を変更する場合がある。このような変更は全ての選手に等しく適用される。

4.6.1.3 競技者がその3か月前までの期間中に適切なダイブを行わなかった場合、主催者はAIDA ランキングリストにあるその競技者のパーソナルベストの50-70%を使用しなければならない。一般的に、ディープダイビングを一定期間行っていない場合、AIDAはその競技者にゆっくりと（パーソナルベストの50-70%を超えないように）再開することを推薦している。その競技者は、主催者（及び、居る場合は大会の医師）と最初のダイブの適切な深度を相談しなければならない。

4.6.1.4 主催者がこの規則のもとで申告を制限する予定の場合、競技会の支払いを受領する前に文面（Eメールなど）により競技者へ告知し、この告知を広告（例：主催者のウェブサイトとグループEメール）に入れなければならない。

4.6.1.5 競技者が申告を制限（すなわち変更）された場合でも、料金の返金はない。主催者は当該の変更を合理的に速やかに競技者へ告知しなければならない。

4.6.2 ソナー

4.6.2.1 世界選手権と世界記録において：深度競技では、ソナーを練習し使用していることが主催者に求められる。

4.6.2.2 世界記録ステータスの競技会において：深度競技では、ソナーの使用経験を積んでいることが主催者に求められる。

4.6.2.3 その他の競技会において：最大競技深度がセーフティダイバーの視界内である場合を除いて、深度競技では、ソナーを練習し使用していることが主催者に推奨される（が必須ではない）。

4.6.3 潜降の再開の禁止

4.6.3.1 CWT、CNF、FIMでは、競技者は一旦浮上を開始した後にターニングバックダウン（再び潜降）することを禁止する。違反者は失格となる（すなわちレッドカード）。

4.6.3.2 「ターニングバックダウン」とは、(i) ソナー上では浮上開始と見受けられたが、その後再び潜降しはじめる、または(ii) 同じ深度に5秒以上留まり、その後潜降する行為として定義される。

4.6.3.3 主催者はこの規則を競技会開始前に競技者へ説明しなければならない。

4.6.3.4 主催者側スタッフは、その稼働が競技者のリスクを軽減すると思われた場合、カウンターバラストを稼働させる権限を持つ（が、要求はされない）。

4.6.4 スクイズの事後。

競技者をケガのリスクから守るため、競技者が著しいスクイズまたはその他競技者の安全性を脅かす医学的状态にある場合、大会の医師は競技者の潜水を止めることができる。医師、主催者（例：セーフティダイバー）またはジャッジの要請により、医師は再潜水前に競技者の検査を要求する。（医師または主催者により決定された通りの）深度潜降の後、パルスオキシメーターによる酸素飽和度検査が義務づけられ、これにより医師は競技者がさらなる検査を必要とするかどうか決定する。主催者と審判長との協議により、医師はそうした規制がダイバーの健康と安全を守るために必要と思われる場合、以下の規定の通り競技者の潜水を禁止することができる。当該規制が実行された場合、大会参加費の返金はない。競技者が医師の検査を拒否した場合、競技者はその競技会で再び潜水することが許されず、別の競技会エントリー前に健康診断書を取得しなければならない。予想される検査結果には以下のものがある。

4.6.4.1 健康なダイバー：自己責任で潜水可能。

4.6.4.2 軽い症状：休憩の勧告、または簡単な潜水（すなわちその競技者にとって浅い深度）への制限。

4.6.4.3 軽度の肺水腫：2日間の休息（またはケガの程度により医師の裁量でそれ以上）。復帰時、以前の潜水より深い申告はできない。異なる種目を行いたい競技者の場合、医師は申告の許容可能な最大深度を決定できる。

4.6.4.4 重度の肺水腫：3日間の休息または競技の終了（ケガの程度により医師の裁量による）。徐々にモニターされた潜水で潜水を継続するようにする（例：以前の目標深度の60%未満から開始する）。異なる種目を行いたい競技者の場合、医師は申告の許容可能な最大深度を決定できる。

4.6.4.5 重症の場合：医療的ケア。競技者が回復したことを医師が確認するまで追加的な潜水はできない。ラングスクイズ（例：ピンク色の気泡または泡を咳出す）は重症の一例。

4.6.4.6 競技者が申告を制限された、あるいは潜水が中止された場合、料金の返金はない。

4.6.5 トレーニング及び装備

4.6.5.1 必要な医療トレーニング：世界選手権と世界記録。AIDA 世界選手権と世界記録競技会では、以下のトレーニングを受けた医師が必要となる。

- 救命外科
- 気道管理
- 二次心肺蘇生法(ACLS)
- 要求されないが、可能なところでは推薦される：ACLS のトレーニングを受けた最低もう 1 人のパラメディックまたはセーフティダイバー。

4.6.5.2 必要な医療トレーニング：世界記録ステータスの競技会。世界記録ステータスの AIDA 競技会では、以下のトレーニングを受けた医師が必要となる。

- 救命外科
- 気道管理
- 二次心肺蘇生法(ACLS)
- 必須ではないが、可能なところでは推薦される：ACLS のトレーニングを受けた最低もう 1 人のパラメディックまたはセーフティダイバー。

4.6.5.3 必要な装備。AIDA 世界選手権と世界記録競技会、及び世界記録ステータスの AIDA 競技会では、以下の装備が必要となる。

- パルスオキシメーター
- 聴診器
- ポケットマスク：スタッフのトレーニングが必要。競技ゾーン内に常備が必要。使用は必須ではない。
- 酸素マスク
- 必須ではないが、可能なところでは推薦される：CPAP フェイシャルマスクと標準マスク。PEEP (positive end-expiratory pressure) バルブ付き BVM (Bag-Valve-Mask) が付いた酸素タンク

4.6.5.4 推薦される装備。AIDA 世界選手権と世界記録競技会、及び世界記録ステータスの AIDA 競技会では、以下の装備は必要ではないが、可能なところでスタッフが使用資格のあるところでは推薦される。

- 吸引器
- プランジャーニードル（または：
[http://www.narescue.com/ARS_for_Needle_Decompression_\(3.25_in.\)-CN1ACDE14CD3FD.html](http://www.narescue.com/ARS_for_Needle_Decompression_(3.25_in.)-CN1ACDE14CD3FD.html))

- AED（自動体外式除細動器）。使用にはドライエリアの検討が必要。
- 口咽頭エアウェイ（気道の使用が簡単な補助）

4.6.6 インシデントレポーティングシステム。2015年1月1日より、AIDA 競技会の主催者は（ヘッドジャッジ、医師と共同で）競技会における安全性関連インシデントを AIDA のオンラインのインシデントレポーティングシステムにて報告する必要があり、手順とインストラクションは同システム内に明記されている。

4.6.7 休息日。競技者が連日潜水することを防ぐため、AIDA は主催者が競技スケジュールに休息日を加えることを奨励する。

5. スタティック (STA)

5.1 概要

5.1.1 スタティック (STA) 競技は、プールまたは限定された安全な自然環境下で実施する。深度要件は、技術資料 (4 項) に規定されている。

5.1.2 競技は水面付近で行う。

5.1.3 競技者は、ウェットスーツ、顔面の装備 (マスク、スノーケル、ノーズクリップなど) を自由に選択することができる。

5.1.4 競技者の公式記録は、2 つの計時結果の平均タイムとする。それぞれの計時においては秒以下切り捨てとする。

例：

公式計時: 5 分 08 秒 64 および 5 分 07 秒 48

平均計時 : $(5'08" + 5'07") / 2 = 5 \text{ 分 } 07 \text{ 秒 } 50$

公式記録 : 5 分 07 秒 = 61.4 ポイント

5.2 国際大会

5.2.1 OT のインターバルは、主催者が審判長と競技の上、決定する。AIDA は、競技者が自分の OT 前の最低 3 分間競技ゾーンにいたことが許可されるよう、推薦する。

5.2.2 ゾーンは、「ウォームアップゾーン」、「待機ゾーン」、「競技ゾーン」の 3 ゾーンで構成される。競技者は、最初の公式アテンプットの 45 分前から「ウォームアップ」を開始でき、「ウォームアップゾーン」に入ることができる。「待機ゾーン」へは、前の競技者が立ち去るまで立ち入ることができない。

5.2.3 競技者のパートナー (キャプテン/コーチ) は、競技者のウォームアップ及びパフォーマンスに付き添い、監督することができる。パートナーは、「ウォームアップゾーン」「待機ゾーン」「競技ゾーン」での補助が許可される。競技者が希望する場合、競技者の競技開始から気道が水面上に出るまで、パートナーをオフィシャルのセーフティフリーダイバーとして配置することができ、パートナーは意識確認のためのボディタッチをすることができる。この時、パートナーは自分がコーチングする競技者の安全についての責任があるが、競技会を通じての安全管理についての責任は主催者にある。いずれにせよ、パフォーマンスが終了し、競技者の気道が水面から出た時点から、パートナーは競技者に触れることは許されない。パートナーは、小さな声で競技者に話しかけることのみ許される。これらが守られなかった場合、その競技者は失格となる。競技終了 (すなわち鼻及び/又は口が水面上に出た) 後の、競技者への (運営スタッフ以外による) あらゆる補助的接触は、競技者の失格につながる。しかし、運営スタッフ (例: ジャッジ、セーフティダイバー、カメラマン) の不注意による、補助的でない接触は失格とはならない。

5.2.4 カウントダウンは 3.2.14 項に基づいて行われる。競技者が OT から 10 秒以内に競技を開始しない場合、ペナルティが適用され、OT から 30 秒を経過してもスタートしない場合は失格となる。また、OT 前にスタートした場合もペナルティが適用される。

5.2.5 競技結果 (RP) が申告時間 (AP) を下回った場合は、ペナルティが適用される。

5.2.6 予備

5.2.7 競技者は OT 毎に 1 度のみ公式アテンプトを行う権利を有する。鼻と口が水中に沈んだ時点で、競技スタートと見なす。競技者の OT 時または OT 後の気道 (すなわち鼻と口) のいかなる入水も、競技の開始とみなされる。

5.2.8 セーフティフリーダイバー及びパートナー (キャプテン/コーチ) は競技中、入水した状態で競技ゾーンに入ることができる。その場合、以下の手順で競技者の意識の状態を確認する責任を有する。セーフティフリーダイバーは、競技者に対し明確にボディタッチをする。競技者は、あらかじめセーフティダイバーあるいはパートナーと決めておいたサインで、意識があることを伝える。この場合、以下の手順が使用される。

主催者が指名したオフィシャルフリーダイバーの場合

- 申告時間 (AP) 1 分前から 30 秒毎
- 申告時間後は、15 秒毎

パートナーの場合

- 特に規定は設けず、パートナーの自由とする

競技者がボディタッチに対するサインを返さなかった場合、ジャッジは直ちにセーフティフリーダイバーもしくはパートナーに、追加の合図をするように指示をする。ジャッジは、反応がおかしい又は反応が無いと判断した場合、セーフティフリーダイバー又はパートナーに、競技者を水から上げるように要求する。ジャッジは、競技者の反応に疑いを持った場合、セーフティフリーダイバーもしくはパートナーに競技者に追加のサインを出させるように指示できる。

5.2.9 AIDA インターナショナルジャッジと、主催者側のタイムキーパーは、競技時間を計測する。競技者の気道 (鼻と口) が水面下に入った時、あるいはスノーケルを使用する場合はスノーケルを口から外した時、ストップウォッチでの計測がスタートする。競技者の気道が水面から出た時、計測をストップする。

5.2.10 決勝戦

5.2.10.1 下記の点を除き、これまでに記載された事項は、決勝においても適用される。

5.2.10.2 メディアの注目を高めるため、決勝戦は複数ゾーンでの同時スタートとすることができる。決勝戦が複数のシリーズにわたる場合、最も好成績の競技者は最終組で競技する。

5.3 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

5.3.1 世界選手権においては、スタティック競技は、プールまたは限定された安全な自然環境下で実施する。

5.3.2 競技の前日、イベントコミッティの少なくとも 4 時間以上前に、それぞれのキャプテンは競技者の申告時間をジャッジに提出しなければならない。

5.3.3 OT のインターバルは、少なくとも 14 分とする。

5.4 競技会における世界記録

5.4.1 パフォーマンスが世界記録を上回ったとき、それが新しい世界記録と認定されるには 3.4 項が満たされなければならない

5.4.2 従来の世界記録よりも 1 秒以上上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

5.5 世界記録アテンプト

5.5.1

5.5.2 アテンプトの時間は、2 人の AIDA インターナショナルジャッジが計測する。気道が水面下に入った時、あるいはスノーケルを使用する時は、スノーケルを口から離れた時から、計測を開始する。競技者の気道が一度水面上に上がった時点で、計測を終了する。

5.5.3 競技者は、ウォームアップの時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが、OT の 60 分前から競技者を監視する。

5.5.4 競技者のパートナー（キャプテン/コーチ）は、競技者のウォームアップ及びパフォーマンスに付き添い、監督することができる。パートナーは競技者の競技開始から気道が水面上に出るまで、自由に競技者に接触することができ、また意識確認のためのボディタッチすることができる。パートナーは、自らがコーチングする競技者に対して責任を有する。ただし、パフォーマンスが終了した（競技者の気道が水面から出た）時点からは、競技者に触れることは許されず、競技者に話しかけることのみ許される。これらが守られなかった場合、その競技者は失格となる。競技終了（すなわち鼻及び／又は口が水上に出た）後の、競技者への（運営スタッフ以外による）あらゆる補助的接触は、競技者の失格につながる。しかし、運営スタッフ（例：ジャッジ、セーフティダイバー、カメラマン）の不注意による、補助的でない接触は失格とはならない。

5.5.5 従来の世界記録よりも 1 秒以上上回った場合、新しい世界記録として認められる。

6. ダイナミック・ウィズフィン/ウィズアウトフィン (DYN/DNF)

6.1 概要

6.1.1 競技はプール内で行われる。全ての DYN/DNF についてのプールの深度要件は、技術資料（4 項）に規定されている。

6.1.2 競技は25ヤード(22.87m)以上のプールで実施した場合のみ世界記録として認定され、AIDA インターナショナルのランキングリストに登録される。ただし、全てのパフォーマンスはメートル法で報告されなければならない。

6.1.3 競技者は、ウェットスーツ、ウエイト、顔面の装置（マスク、スノーケル、ノーズクリップなど）を自由に選択することができる。

6.1.4 両競技において、選手は手や腕を使って泳いでもよい。ただし、特別なパドル類、スイミンググローブやスイミングソックスなどの推進力を生む手段は（DYN でのビーフィン、モノフィンを除き）使用を禁止する。

6.1.5 DYN では、競技者はビーフィンとモノフィンのいずれを使用してもよい。ただし、世界記録についてはビーフィンかモノフィンのいずれかを使用しなければならない。

6.1.6 競技者は、潜水前に水中にいななければならない。飛び込みもしくはジャンピングスタート、その他サポートポイントからの助走をつけたあらゆるスタートを禁止する。競技は気道（鼻か口）が水面に出た時点で終了する。

6.1.7 競技者のパートナー（キャプテン/コーチ）は、競技者のウォームアップ及びパフォーマンスに付き添い、監督することができる。パートナーは、「ウォームアップゾーン」「競技ゾーン」で競技者を補助することができる。ただし、OT 後は、話しかけることのみ許され、競技者に触ることは許されない。競技終了（すなわち鼻又は口が水上に出た）後の、競技者への（運営スタッフ以外による）あらゆる補助的接触は、競技者の失格につながる。しかし、運営スタッフ（例：ジャッジ、セーフティーダイバー、カメラマン）の不注意による、補助的でない接触は失格とはならない。

6.1.8 競技者は完全に水中に没していなければならない。水面露出については 11.6 項を参照。

6.1.9 競技者補助のため、1 名以上のセーフティスタッフが伴泳又は追走しなければならない。競技者のレーンがプールサイドから距離がある場合は、1 名以上のセーフティフリーダイバーが水中で伴泳するものとする。また、1 コースに複数のセーフティフリーダイバーを配置することも可能とし、その場合、セーフティフリーダイバーはそのレーンを分割して担当してもよい。

6.1.10 到達距離は、競技者の気道（鼻か口）が水面に出た場所で計測される。ただし、競技者がプールの端で競技を終了する場合、気道（鼻か口）が水面に出る前にエンドウォールに水面下でタッチすること。計測単位はメートル法とし、少数点以下は切り捨てとする。

例：

172.9m = 172m、公式記録：172x0.5=86 ポイント

6.1.11 自力での潜行水泳以外のいかなる推進支援も利用してはならない（ターン時にエンドウォールを蹴ることは許される）。浮上時にプールの底を押して浮上することもペナルティとなる【補足；浮上に際し、気道が水面上に出る前に足などをプールの底につく行為は、浮上のための連続動作であってもペナルティが適用される】。競技終了時のプールエッジのグラブについては 11.6 項を参照のこと。

6.1.12 スタート時、壁から 1.5m 以内の地点で気道（鼻と口）が水中に没していなければならない。違反した場合は失格となる。

6.1.12.1 スタート時に身体のだこかの部分がプールのエンドウォールに接触していなければならない。違反した場合はペナルティが適用される。

6.1.13 ターンでは身体の一部がエンドウォールに接触しなければならない。違反した場合はペナルティが適用される【フィン「身体のだこか」に含まない。フットポケットの部分のみ、身体の一部として認められる】。また、ターン時に身体と壁が 1m 以上離れていた場合は失格となる。

6.2 国際大会

6.2.1 競技者は、DYN の競技会でフィンを使わずに泳ぐことは可能である。DNF の競技会では、いかなるフィンの使用も許されない。競技会が DYN/DNF として公式発表された場合、競技者はフィンの使用の有無を選択することができるが、一つの競技会として結果表は一つになる。AIDA ランキングにおいてはそれぞれの種目の結果として記載される。競技会が DYN-DNF として公式発表された場合、競技者はどちらの競技に出場するかを選択することができる。競技会は 2 つの独立したものとして扱われ、結果表も別々になる。競技会が単独種目として公式発表された場合は、混合種目としては扱えない。

6.2.2 ゾーンは「ウォームアップゾーン」と「競技ゾーン」の 2 ゾーンで構成される。競技者は OT45 分前からウォームアップを開始でき「ウォームアップゾーン」に入ることができる。「競技ゾーン」へは前の競技者が立ち去るまで立ち入ることができない。

6.2.3 AIDA は、各競技者が少なくとも自分の OT3 分前に競技ゾーンに入ることを許可されるよう強く推薦する。

6.2.4 主催者は、競技者の要請があった場合、会場内に休憩のための場所を準備しなければならない。

6.2.5 カウントダウンは 3.2.14 項に基づいて行われる。競技者が OT から 10 秒以内に競技を開始しない場合、ペナルティが適用され、OT から 30 秒を経過してもスタートしない場合は失格となる。また、OT 前にスタートした場合もペナルティが適用される。

6.2.6 競技者は OT 毎に 1 度のみ公式アテンプトを行う権利を有する。いったん鼻と口が入水し競技者がウォールを離れたらアテンプトが開始されたものとみなす。競技者の OT の 30 秒より前に気道（すなわち鼻と口）が入水し、ウォールから離れた場合は、いずれもパフォーマンスの開始とみなされる。

6.2.7 競技者は、自分がスタートした競技ゾーン（すなわちレーン）に浮上しなければならない。違反した場合は失格となる。ただし、競技者が自分のレーンを外れても、他の競技者の妨害となることなく自分のレーンに戻れば失格とはならない。

6.2.8 競技結果 (RP) が申告距離 (AP) を下回った場合は、ペナルティが適用される。(11項を参照)

6.2.9 決勝戦

6.2.9.1 下記の点を除き、これまでに記載された事項は決勝においても適用される。

6.2.9.2 メディアの注目を高めるため、決勝戦では競技者は予選の成績に準じて複数ゾーンに配置することができる。決勝戦が複数のシリーズにわたる場合は、最も好成績の競技者は最終組で競技しなければならない。

6.3 世界選手権 (ワールドチャンピオンシップ)

6.3.1 予備

6.3.2 世界選手権においては、6.2.1 項は適用されない。

6.3.3 競技の前日、イベントコミッティの少なくとも 4 時間以上前に、それぞれのキャプテンは競技者の申告距離をジャッジに提出しなければならない。

6.3.4 OT のインターバルは、少なくとも 10 分とする。

6.4 競技会における世界記録

6.4.1 パフォーマンスが世界記録を上回ったとき、それが新しい世界記録と認定されるには 3.4 項が満たされなければならない

6.4.2 従来の世界記録よりも 1m 以上上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

6.5 世界記録アテンプト

6.5.1 予備

6.5.2 競技者はウォームアップ時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが OT の 60 分前から競技者を監視する。

6.5.3 競技中、1 人以上のセーフティーフリーダイバーを併泳させ、又は (競技者のレーンがプールサイドの場合) プールサイドで追走させ、競技者の競技進行をフォローしなければならない。

6.5.4 従来の世界記録よりも 1m 以上上回った場合、新しい世界記録として認められる。

7. コンスタントウエイト・ウィズフィン/ウィズアウトフィン (CWT/CNF)

7.1 概要

7.1.1 競技は海水又は淡水の競技場で行われる。

7.1.2 競技者のパートナー（キャプテン/コーチ）1人のみが競技者のウォームアップおよび競技に付き添い、オフィシャルゾーン（「ウォームアップゾーン」「トランジションゾーン」「競技ゾーン」）に入って競技者をサポートすることができる。ただし、OT 後はいかなる場合も競技者に触れてはならない。競技者にトラブルがあった場合は、主催者側が補助する。パートナーは水面で待機しなければならない。パートナーが潜降した場合、競技者は失格となる。

7.1.3 主催者は、競技者がドライウォームアップを必要とする場合、そのための十分な広さの休憩場所やフロートなどを用意する。

7.1.4 器材

- ノーズクリップ、フリーダイビング用コンタクトレンズ、マスク内空気容量を減少させる機構は、いずれも使用を認める。マスクの中に水を入れる行為も許可する。
- ウェイトは、リストウェイト、アングルウェイト、ネックウェイト等クイックオープンリリースシステムを備え、ダイビングスーツの外側に装着する限りどのような物でも使用を認める。
- 特別なパドル類、またはスイミンググローブ/ソックスは使用を禁止する。CWT では、モノフィンまたはビーフィンの使用を認める（CNF では使用不可）。審判団は、競技終了後、水から上がったところでウェイトの変化をチェックする。ウェイトの変化が確認された場合、その競技は無効とする。

7.1.5 競技者は、世界選手権および世界記録アテンプトにおいては AIDA インターナショナルから、それ以外のすべての競技会においては主催者から支給され、ジャッジによってテスト調整された公式深度計を手首に付けなければならない。

7.1.6 競技者は、タグを水上に持ち帰りジャッジに示さなければならない。タグの様子は技術資料（3 項）に規定されている。

7.1.7 競技者は、自らのフィンキックで潜降・浮上しなければならない。潜降・浮上中は、7.1.7.1 項および 7.1.7.2 項に示す場合を除き、競技ロープを引っ張るまたは掴む行為をしてはならない。

7.1.7.1 競技者が競技中、気道（鼻と口）が水面下にある場合、ボトムプレートから 2m 以内のゾーン（以下「2m ゾーン」という）では、失格とならずにロープを引っ張るまたは掴むことができる。ただし、競技ロープの水面または水上部分を掴むことが禁じられていないことを前提とする。2m ゾーン以外でロープを掴むとペナルティが適用される。競技中、競技者がロープを掴んで引っ張った場合は失格となる。ただし例外的に、申告深度に届かずに浮上する場合に、ターンするために 1 回に限りロープを握り、引っ張ることは認められる。

7.1.7.2 競技者は潜水中、ロープをガイドとして使うことは認められるが、推進のためのサポートとして使った場合、ペナルティが適用される。ただし、スタート時に競技ロープの水上か水面部を掴むことは許される。これは、競技者の身体や開いた掌がロープに接触することは許容されるという意味であり、競技者がロープを保持する、またはロープをサポートとして使った場合は、ペナルティが適用される。ただし、それが 2m ゾーンの猶予内であれば、競技者は自由に手を動かすこともロープを掴むこともできる。2m ゾーンは明確に区別できるように、印を付けておかなければならない。前述に関係なく、競技者は、競技の最後の水面への浮上のための動作に関連して競技ロープの水面または水上部分を掴み、引っ張ることができ、この行為はペナルティとならない。

7.1.8 競技者は、潜水前に水中にいななければならない。飛び込みもしくはジャンピングスタート、その他サポートポイントからの助走をつけたあらゆるスタートを禁止する。

7.1.9 深度計測

- ボトムプレートは申告深度に設置されなければならない。ボトムプレートの仕様は技術資料（3章）に明記されている。
- 競技者は、申告深度（AP）のボトムプレートに設置されたタグを持って浮上しなければならない。この場合、申告深度と等しいポイントが与えられる。タグを持ち帰らなかった場合、ペナルティが適用される。
- 競技者がタグを持ち帰らなかった場合、公式深度計の値が競技記録となる。
- 競技深度は、小数点以下切り捨てで表示する。
- 公式深度計の値が申告深度より深い深度を示していた場合は、申告深度が記録となる。ベースプレートが申告深度より明らかに深く設置されていることが判明した場合、競技会進行中であっても、主催者はできるだけ早くベースプレートの深度を正さなければならない。
- 公式深度計が申告深度より浅い深度を示していた場合は、ペナルティが適用される。ただし、タグを持ち帰り、ジャッジに手渡した場合はその限りではない。ベースプレートが申告深度より明らかに浅く設置されていることが判明した場合、競技会進行中であっても、主催者はできるだけ早くボトムプレートの深度を正さなければならない。

7.2 国際大会

7.2.1 競技者は、CWT の競技会で、フィンを使わずに泳ぐことは可能である。CNF の競技会では、いかなるフィンの使用も許されない。競技会が CWT/CNF として公式発表された場合、競技者はフィンの使用の有無を選択することができるが、一つの競技会として結果表は一つになる。AIDA ランキングにおいては、それぞれの種目の結果として記載される。競技会が CWT-CNF として公式発表された場合、競技者はどちらの競技に出場するかを選択することができる。競技会は 2 つの独立したものとして扱われ、結果表も別々になる。競技会が単独種目として公式発表された場合は、混合種目としては扱えない。

7.2.2 審判団はそれぞれの競技者の OT 時間を以下の要領で決定する。(天候、メディア報道を含む大会の環境は、審判団の判断材料となる)

- 大深度のセーフティーがスクーバの場合、それぞれの日で申告深度の最も深い競技者が最初に競技するものとする。コンスタントウエイト競技が数日間に亘る場合は、申告深度の最も深い競技者が最終日に競技を行うものとする。
- 大深度のセーフティーがカウンターバランスシステムまたは類似の装置の場合、それぞれの日で申告深度の最も深い競技者が最初に競技してもよい。コンスタントウエイト競技が数日間に亘る場合、申告深度の最も深い競技者が最終日に競技を行わなければならない。

7.2.3.1 カウントダウンは 3.2.14 項に基づいて行われ、競技者は OT から 30 秒以内に潜降を開始しなければならない。30 秒を超過した場合は失格とする。競技者が OT 前にスタートした場合、ペナルティが適用される。スタートは、与えられた 30 秒間に 1 回のみ許される。

7.2.3.2 競技者は、OT 毎に 1 度のみ競技を行う権利を有する。いったん鼻と口が入水し体が水面を離れたら、競技が開始されたものとみなす。OT30 秒前からの気道(すなわち鼻と口)の入水と水面からの離脱は、競技の開始とみなす。

7.2.4 公式ゾーンは、「1 か所以上のウォームアップロープ」と「1 か所以上の競技ロープ」から成り、主催者によって区分される。公式ゾーンへの立ち入りが許されるのは、競技者、ジャッジ、セーフティーフリーダイバー、セーフティースクーバダイバー、医師、大会役員および競技者のパートナーに限られる。

7.2.5 公式ゾーンは、主催者により「ウォームアップゾーン」「トランジションゾーン」「競技ゾーン」の 3 つの区域に区分される。競技者は OT45 分前から「ウォームアップゾーン」に入ることができる。「トランジションゾーン」および「競技ゾーン」へは、前の競技者が立ち去るまで、入ることはできない。

7.2.6 競技エリアには、競技者、パートナー(キャプテン/コーチ)、審判、セーフティーフリーダイバー以外は立ち入ることができない。

7.2.7 ウォームアップ

- ウォームアップロープと競技ロープは遠く離れていてはならないが、ウォームアップ中の競技者が、競技中の競技者の妨げにならない程度には離さなければならない。
- 1 本のウォームアップロープで、2 競技者以上が同時に潜降してはならない。
- ウォームアップゾーンでは、ウォームアップロープ沿い以外での潜降を禁止する。
- AIDA は、全てのウォームアップダイブにおいてラニヤードの装着を強く推奨し、主催者が、ウォームアップダイブ中のラニヤード装着を(競技者に)求めることは明確に許可されている。
- 全てのウォームアップロープは、主催者が提供するセーフティーダイバーにより十分に管理されていなければならない。

7.2.8 AIDA は、各競技者が少なくとも自分の OT3 分前に競技ゾーンに入ることを許可されるよう強く推奨する。

7.3 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

7.3.1 それぞれのキャプテンは、競技の前日、イベントコミッティの少なくとも4時間以上前に、競技者の申告深度を審判に提出しなければならない。

7.3.2 予備

7.3.3 主催者は、競技者がドライウォームアップを必要とする場合、そのための十分な広さの休憩場所やフロートなどを用意しなければならない。

7.4 競技会における世界記録

7.4.1 競技結果が世界記録を上回っている場合、新しい世界記録と認定されるためには、3.4項が満たされなければならない。従来の世界記録よりも1m以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

7.5 世界記録アテンプト

7.5.1 競技ダイバーは、以下の必要条件を満たしていなければならない：アテンプトの3ヶ月前から2日前までの期間に、ターゲットとする記録の5m以内のパフォーマンスを実施していること。

7.5.2 競技者は、ウォームアップの時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが、OTの60分前から競技者を監視する。

7.5.3 予備

7.5.4 深度確認のため、深度計をボトムプレートの下に設置しなければならない。

7.5.5 予備

7.5.6 従来の世界記録よりも1m以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

8. フリーイマージョン

8.1 概要

8.1.1 競技は、海水又は淡水の競技場で行われる。

8.1.2 競技者のパートナー（キャプテン/コーチ）1人のみが競技者のウォームアップおよび競技に付き添い、オフィシャルゾーン（「ウォームアップゾーン」「トランジションゾーン」「競技ゾーン」）に入って競技者をサポートすることができる。ただし、OT後は、いかなる場合も競技者に触れてはならない。競技者にトラブルがあった場合は、主催者側が補助する。

8.1.2 パートナーは水面で待機しなければならない。パートナーが潜降した場合、競技者は失格となる。

8.1.3 主催者は、競技者がドライウォームアップを必要とする場合、そのための十分な広さの休憩場所やフロートなどを用意する。

8.1.4 器材

- ノーズクリップ、フリーダイビング用コンタクトレンズ、マスク内空気容量を減少させる機構は、いずれも使用を認める。マスクの中に水を入れる行為も許可する。
- ウェイトは、リストウェイト、アングルウェイト、ネックウェイト等クイックオープンリリースシステムを備え、ダイビングスーツの外側に装着する限りどのような物でも使用を認める。審判団は、競技終了後、水から上がったところでウェイトの変化をチェックする。ウェイトの変化が確認された場合、その競技は無効とする
- 特別なパドル類、またはスイミンググローブ/ソックスは使用を禁止する。

8.1.5 競技者は、世界選手権および世界記録アテンプトにおいてはAIDA インターナショナルから、それ以外のすべての競技会においては主催者から支給され、ジャッジによってテスト調整された公式深度計を手首に付けなければならない。

8.1.6 競技者は、タグを水面に持ち帰り、ジャッジに示さなければならない。

8.1.7 競技者はロープを手繰るか、又は自力で泳いで潜降・浮上しなければならない。

8.1.8 競技者は潜行前に水中にいななければならない。飛び込みもしくはジャンピングスタート、またはその他サポートポイントからの勢いをつけたいかなるスタートも禁止する。

8.1.9 深度計測

- ボトムプレートは申告深度に設置されなければならない。
- 競技者は、申告深度（AP）のボトムプレートに設置されたタグを持って浮上しなければならない。この場合、申告深度と等しいポイントが与えられる。タグを持ち帰らなかった場合、ペナルティが適用される。
- 競技者がタグを持ち帰らなかった場合、公式深度計の値が競技記録となる。
- 競技深度は、小数点以下切り捨てで表示する。

- 公式深度計の値が申告深度より深い深度を示していた場合は、申告深度が記録となる。ベースプレートが申告深度より明らかに深く設置されていることが判明した場合、競技会進行中であっても、主催者はできるだけ早くベースプレートの深度を正さなければならない。
- 公式深度計が申告深度より浅い深度を示していた場合は、ペナルティが適用される。ただし、タグを持ち帰り、ジャッジに手渡した場合はその限りではない。ベースプレートが申告深度より明らかに浅く設置されていることが判明した場合、競技会進行中であっても、主催者はできるだけ早くボトムプレートの深度を正さなければならない。

8.2 国際大会

8.2.1 審判団はそれぞれの競技者の OT 時間を以下の要領で決定する。

- 大深度のセーフティーがスクーバの場合、それぞれの日で申告深度の最も深い競技者が最初に競技するものとする。フリーイマージョン競技が数日間に亘る場合は、申告深度の最も深い競技者が最終日に競技を行うものとする。
- 大深度のセーフティーがカウンターバランスシステムまたは類似の装置の場合、それぞれの日で申告深度の最も深い競技者が最初に競技してもよい。フリーイマージョン競技が数日間に亘る場合は、申告深度の最も深い競技者が最終日に競技を行うものとする。

8.2.2.1 カウントダウンは 3.2.14 項に基づいて行われ、競技者は OT から 30 秒以内に潜降を開始しなければならない。30 秒を超過した場合は失格とする。競技者が OT 前にスタートした場合、ペナルティが適用される。スタートは、与えられた 30 秒間に 1 回のみ許される。

8.2.2.2 競技者は、OT 毎に 1 度のみ競技を行う権利を有する。いったん鼻と口が入水し体が水面を離れたら、競技が開始されたものとみなす。OT30 秒前からの気道（すなわち鼻と口）のいかなる入水および水面からの離脱も、競技の開始とみなす。

8.2.3 公式ゾーンは、「1 か所以上のウォームアップロープ」と「1 か所以上の競技ロープ」から成り、主催者によって区分される。公式ゾーンへの立ち入りが許されるのは、競技者、ジャッジ、セーフティーフリーダイバー、セーフティースクーバダイバー、医師、大会役員および競技者のパートナーに限られる。

8.2.4 公式ゾーンは、主催者により、「ウォームアップゾーン」「トランジションゾーン」「競技ゾーン」の 3 つの区域に区分される。競技者は OT45 分前から、「ウォームアップゾーン」に入ることができる。「トランジションゾーン」および「競技ゾーン」へは、前の競技者が立ち去るまで、入ることはできない。

8.2.5 パフォーマンスエリアは以下の人員のみアクセス可能：競技者、そのパートナー（キャプテン/コーチ）、ジャッジおよびセーフティーフリーダイバー。

8.2.6 ウォームアップ

- ウォームアップロープと競技ロープは遠く離れていてはならないがウォームアップ中の競技者が、競技中の競技者の妨げにならない程度には離さなければならない。
- 1 本のウォームアップロープで、2 競技者以上が同時に潜降してはならない。

- ウォームアップゾーンでは、ウォームアップロープ沿い以外での潜降を禁止する。
- AIDA は、全てのウォームアップダイブにおいてラニヤードの装着を強く推奨し、主催者が、ウォームアップダイブ中のラニヤード装着を（競技者に）求めることは明確に許可されている。
- 全てのウォームアップロープは、主催者が提供するセーフティダイバーにより十分に管理されていなければならない。

8.2.7 AIDA は、各競技者が少なくとも自分の OT3 分前に競技ゾーンに入ることを許可されるよう強く推奨する。

8.3 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

8.3.1 それぞれのキャプテンは、競技の前日、イベントコミッティの少なくとも 4 時間以上前に、競技者の申告深度を審判に提出しなければならない。

8.3.2 予備

8.2.3 主催者は、競技者がドライウォームアップを必要とする場合、そのための十分な広さの休憩場所やフロートなどを用意しなければならない。

8.4 競技会における世界記録

8.4.1 競技結果が世界記録を上回っている場合、新しい世界記録と認定されるためには、3.4 項が満たされなければならない。従来の世界記録よりも 1m 以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

8.5 世界記録アテンプト

8.5.1 競技ダイバーは、以下の必要条件を満たしていなければならない：アテンプトの 3 か月前から 2 日前までの期間にターゲットとする記録の 5m 以内のパフォーマンスを実施していること。

8.5.2 競技者は、ウォームアップの時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが、OT の 60 分前から競技者を監視する。

8.5.3 予備

8.5.4 深度確認のため、深度計をボトムプレートの下に設置しなければならない。

8.5.5 予備

8.5.6 従来の世界記録よりも 1m 以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

9. バリアブルウェイト(VWT)

9.1 概要

9.1.1 AIDA インターナショナルは、バリアブルウェイトを競技会の正式種目として認定しない。

9.1.2 AIDA インターナショナルの「スレッドダイビングのガイドラインと手順」が適用される。

9.2 世界記録アテンプト

9.2.1 競技ダイバーは、以下の必要条件を満たしていなければならない：アテンプトの3か月前から3日前までの期間に、ターゲットとする記録の10m以内のパフォーマンスを実施していること。

9.2.2 競技は、海水又は淡水の競技場で行われる。

9.2.3 器材

- ノーズクリップ、フリーダイビング用コンタクトレンズ、マスク内空気容量を減少させる機構は、いずれも使用を認める。マスクの中に水を入れる行為も許可する。
- ウェイトは、リストウェイト、アングルウェイト、ネックウェイト等クイックオープンリリースシステムを備え、ダイビングスーツの外側に装着する限りどのような物でも使用を認める。
- ダイビングスーツの厚みは、競技会場が海水の場合は7mm、淡水の場合は9mmを上回ってはならない。
- ウェットスーツがセパレートタイプの場合、脇の下から股の部分に限り、二重になっていてもよい。
- スレッドの重さは競技者が自由に選択できる
- ボトムウェイトは競技ロープが垂直になるのに十分な重さでなければならない。
- モーター／エンジン／プロペラ等、推進力を補助する機器の使用を禁止するビーフィンまたはモノフィンの使用は許可する。
- 競技者は固定されたロープを潜降しなければならない。競技者は、ロープのボトムウェイトをバラストとして利用し潜降することはできない。（すなわち「ボトムウェイトに乗る行為」は許可されない。）

9.2.4 その他浮上を補助する装置等は、大会のAIDA インターナショナルジャッジがAIDA インターナショナルのジャッジ統括責任者および／またはスポーツオフィサーと協議の上、禁止する。

9.2.5 競技者をスレッドに固定する装置は、それらがクイックリリース可能なシステムを備えていても、使用を禁止する。但し、ロープに沿ってスライドするアタッチメントのシステムの使用は許可し、その場合セーフティロープの使用が義務付けられる。

9.2.6 競技者はウォームアップの時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが、OTの60分前から競技者を監視する。

9.2.7 競技者は、自らの力によるビーフィン/モノフィン、および/またはロープを手繰ることによって浮上しなければならない。浮上を補助するインフレーターまたはメカニカルなシステムの使用は禁止する。

9.2.8 予備

9.2.9 従来の世界記録よりも1m以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

10. ノーリミッツ(NLT)

10.1 概要

10.1.1 AIDA インターナショナルは、ノーリミッツを競技会の正式種目として認定しない。

10.1.2 AIDA インターナショナルの「スレッドダイビングのガイドラインと手順」が適用される。

10.2 世界記録アテンプト

10.2.1 競技ダイバーは、以下の必要条件を満たしていなければならない：アテンプトの3か月前から3日前までの期間に、ターゲットとする記録の10m以内のパフォーマンスを実施していること。

10.2.2 競技は、海水又は淡水の競技場で行われる。

10.2.3 器材

- ノーズクリップ、フリーダイビング用コンタクトレンズ、マスク内空気容量を減少させる機構は、いずれも使用を認める。マスクの中に水を入れる行為も許可する。
- ウエイトは、リストウエイト、アングルウエイト、ネックウエイト等クイックオープンリリースシステムを備え、ダイビングスーツの外側に装着する限りどのような物でも使用を認める。
- スレッドの重さは、競技者が自由に選択できる
- ボトムウエイトは、競技ロープが垂直になるのに十分な重さでなければならない。
- 浮上の場合には、モーター/エンジン/プロペラ等、を補助する機器の使用を許可する。潜降にはウエイト付スレッド以外、推進を補助する器材の使用は禁止する。

10.2.4 競技者をスレッドに固定する装置は、それらがクイックリリース可能なシステムを備えていても、使用を禁止する。但し、ロープに沿ってスライドするアタッチメントのシステムの使用は許可し、その場合セーフティロープの使用が義務付けられる。

10.2.5 競技者は、ウォームアップの時間を自由に選択することができる。一人のジャッジが、OTの60分前から競技者を監視する。

10.2.6 従来の世界記録よりも1m以上記録が上回った場合に、新しい世界記録として認められる。

11. ペナルティ

11.1 以下に記載する間違いを犯した場合、失格とはならないがペナルティが適用される。負の数は AIDA 記録として認められない。

11.2 ペナルティのない記録のみが AIDA 世界記録、大陸記録として公認される。

11.3 OT より早く競技を開始した場合、5 秒につき 1 ポイントのペナルティが適用される。

11.4 プール競技において、競技者が定められた時間 (STA,DYN,DNF では OT から 10 秒以内) を超えて競技開始した場合、OT から 30 秒までは、5 秒につき 1 ポイントのペナルティが適用される。30 秒を超過した場合は失格となり、スタートが許されない。

11.5 申告 (AP) と結果 (RP) の差によるペナルティ

11.5.1 スタティック競技 (STA) において、結果が申告時間を下回った時、5 秒につき 1 ポイントのペナルティが適用される。

計算例 :

申告 (AP) = 5 分 35 秒、結果 (RP) = 5 分 4 秒

申告と結果の差 = 31 秒

ペナルティ = 7 ポイント

最終ポイント = $60.8 - 7 = 53.8$ ポイント

11.5.2 ダイナミック競技 (DYN/DNF) において、結果が申告距離を下回った場合、1m につき 0.5 ポイントのペナルティが適用される。

計算例 :

申告 (AP) = 100m、結果 (RP) = 89m

申告と結果の差 = 11m

ペナルティ : $11 \times 0.5 = 5.5$ ポイント

最終ポイント : $44.5 (89m) - 5.5 (11m) = 39$ ポイント

11.5.3 深度競技 (CWT/CNF/FIM) において、深度計が申告より浅い深度を示した場合、結果と申告深度の差 1m につき 1 ポイントのペナルティが適用される。ただし、タグを持ち帰り、ジャッジに手渡した場合はその限りではない。

計算例：

申告 = 50m、結果 (深度計の読み) = 46.5m

実際の結果 = 46.5 → 結果 = 46m

ペナルティ：

- 申告と結果の差：50m-46m = 4m、ペナルティは 4 ポイント
- タグを持ち帰らない：ペナルティは 1 ポイント

最終ポイント：46-5 = 41 ポイント

11.6 ダイナミック競技 (DYN/DNF) 特有のペナルティ

11.6.1 スタート時及びターン時に、身体のいかなる部分も壁にタッチしなかった場合は、1 回につき 5 ポイントのペナルティが適用される。また、ターン時に身体と壁が 1m 以上離れていた場合は、失格とする。

11.6.2 競技者は、選手が、身体の一部が水面に出たままレーンを泳ぎ切った / 水面に出たまま全競技を行った場合失格となる。この規則に違反した場合は失格となる。前述に限らず、水面でアームリカバリーを行った場合は失格となる。【アームリカバリー：クロールの様な動きで腕を体の脚の方から頭の方に戻す動作】

11.6.3 競技者が、競技中に身体をサポートするもの(壁、コースロープ、プールの底等)につかまったり、押ししたりした場合は、5 ポイントのペナルティが適用される。ただし、競技者が浮上に際してプールのエッジまたはロープを掴むことは、ペナルティの対象とならないものとする。

11.7 深度競技 (CWT/CNF/FIM) 特有のペナルティ

11.7.1 競技者が、競技中に安全上の理由以外でセーフティラニヤードを外した場合は、10 ポイントのペナルティが適用される。

11.7.2 競技者がタグをジャッジに渡せなかった場合は、1 ポイントのペナルティが適用される。

11.8 コンスタント競技 (CWT/CNF) 特有のペナルティ

11.8.1 競技者は、気道（鼻と口）が水面下にある場合、2mゾーン（ボトムプレートから2m以内の範囲）では、失格とならずにロープを掴むことが認められる。競技中、鼻と口が水面下にある間に、ロープの2mゾーン以外の場所を掴んだ場合、1回につき5ポイントのペナルティが適用される。ただし7.1.7項記載の例外を除く。前述に関係なく、競技者は、競技開始時、競技ロープの水面または水上部分を（すなわち、手が完全に入水しない限り）、ペナルティ無しに掴むことができる。

12. プロテスト（異議申し立て）

12.1 キャプテン(不在の場合は競技者自身)は、当該事象が起きてから最大 15 分以内、または当日の結果発表後 15 分以内に、ジャッジにプロテスト(異議申し立て)を行うことができる。

12.2 審判団は、水面下での規則の違反をセーフティダイバーまたはボトムカメラビデオのレビューから確認した場合、適用可能なペナルティまたは失格を競技者および/またはそのチームキャプテンへ直接告知するか、結果発表時に当該ペナルティ/失格を含めるものとする。

12.3 プロテストがあった場合、ジャッジは選手のペナルティまたは失格について、以下の手順で判断する。

12.3.1 プロテストは、すべて審判室で管理し、ひとつずつ処理する。

12.3.2 ジャッジは、それぞれのプロテストについて、最初にビデオ映像を見る。ビデオ映像は、必要に応じ、何度もまたはスローモーションで再生する。

12.3.3 判定を行ったジャッジは、事実の要約と、その判定に至った経緯を他のジャッジに説明する。

12.3.4 競技者とキャプテンは、公式ビデオ映像を見て、追加のコメントを付け加えることができる。その後、競技者とキャプテンは退室する。

12.3.5 競技者は必ず事情を聴取され、関連性があれば、審判団は競技者の安全および潜降と浮上の監視を担当するスタッフたちからも聴取できる。

12.3.6 審判団はプロテストについて協議できるが、審判団長が課す協議の制限（例：各ジャッジの発言を 1 分に限定するなど）を前提とする。審判団はその後、各プロテストに対する無記名式投票へと進む。

12.4 単に疑わしいだけの場合は、競技者にとって有利な判定を行わなければならない（すなわち、何が起きたのかがよくわからない場合、競技者にとって有利に解釈する）。この場合、審判団はどのパフォーマンスを考慮の対象とするかを決定する。

12.5 審判団は、遅くとも競技当日のイベントコミッティにおいて、当日の競技におけるプロテストの判定結果について報告する。

12.6 プロテスト申立人は 50 ユーロまたは同額の現地通貨を支払わなければならない。これは審判団が競技者の正当性を認めた場合は返金される。逆に、審判団が競技者の正当性を認めない（すなわち申し立てが覆らない）場合、支払金は競技の主催者に渡されるが、AIDA 世界選手権または世界記録競技会では、支払金は AIDA インターナショナルへ渡る。

12.7 AIDA 世界選手権大会では、プロテストを行う競技者と同じ国籍のジャッジは、プロテスト処理から外れなければならない（すなわち、そのプロテスト処理のあらゆる過程、または審判団投票の間、プロテストが処理される部屋にいてはならない）。

12.8 審判団の決定において、結果が同数となった（例えば、棄権によりジャッジの人数が偶数になった）場合は、審判団長の票（プロテストに参加している場合）、または副審判団長（審判団長が参加していない場合）の票が 2 票として数えられる。

12.9 決勝時のパフォーマンスに関するプロテストによって、決勝がやり直しになることはない。

12.10 競技者は、自身の競技中の環境（セーフティダイバーや主催者の不備により競技への妨げがあった、など）に対してもプロテストを行うことができる。この場合、競技者は審判にその場で直接申し立てることができ、それが有効と認められれば、競技のやり直しができるものとする（特に深度競技において）。

12.11 各プロテストはひとつの問題のみを扱う。例えば、競技者がクラブ違反およびサーフェイスプロトコル違反でペナルティを適用されている場合、その競技者が両方の問題で申し立てをしたい場合はふたつの申し立てを行わなければならない。別々の問題はそれぞれのプロテストフォームに記載し、別個のプロテストとして扱われなければならない。

13. 競技審判団

13.1 国際大会

13.1.1 国際大会では、審判団は当該競技会で AIDA インターナショナルを代表する 2 名以上の AIDA インターナショナルジャッジで構成されるものとする。AIDA ランキングリストに掲載するプール競技では 1 名以上、深度競技では 2 名以上の AIDA ジャッジがその競技をジャッジしなければならない。

13.1.2 アシスタントジャッジは、AIDA インターナショナルジャッジのポジションに関連する特定の職務（公式カウントダウン、深度計およびタグの管理、タイムキーピング等）を補助するもので、スタティック競技においてはジャッジとアシスタントジャッジを設置されることがある。

13.1.3 ジャッジはウォームアップのスタートから競技に立ち会い、以下のことを行う。

- 競技会が競技規則どおり運営されていることの確認。
- 競技者の装備のチェック。
- 競技者のパフォーマンスのチェック。
- 競技会に関連する規則を遵守しない、または主催者の円滑な運営や競技会の安全性を損なう競技者を失格にする。
- 競技者やスタッフの安全が脅かされた場合、競技を中断させる。
- チームキャプテンから提出されたプロテストの収集（該当する場合）

13.1.4 コンスタントウエイト、フリーイマージョンにおいては、1 名以上のジャッジが水中で判定を行わなければならない。世界記録を上回る申告の場合、その結果が世界記録として認定されるためには、2 名以上のジャッジが水中で判定しなければならない。（3.4 項参照）

13.1.5 主催者は、競技会の 2 週間前までに審判長を AIDA インターナショナルへ（CARS システムを通じて）告知しなければならない。世界記録ステータスの競技会では、当該告知は競技会の 6 週間前までに AIDA インターナショナルへ告知しなければならない。

13.2 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

13.2.1 世界選手権においては、AIDA インターナショナルは AIDA ジャッジ IOP の条件に従い審判団を指名する。審判団は 6 名以上の AIDA ジャッジから構成される。ジャッジ要件は下の 13.3.3 項と 13.3.4 項に規定されている。

13.2.2 アシスタントジャッジは、競技会の通常の進行に関し投票や決定はできないが、各状況においてインターナショナルジャッジ（意思決定の際にそれを検討する者たち）へ自分たちの意見を述べることができる。

13.3.3 AIDA 世界選手権大会には、マネージングジャッジ（レベル B）以上の審判長を配置しなければならない。AIDA 世界選手権のジャッジは、シニアジャッジ（レベル D）以上でなければならない。前述に加え、

(i)AIDA プール世界選手権のジャッジは、AIDA プール競技会から 30 ポイント以上を得ていること。

(ii)AIDA 深度世界選手権のジャッジは、AIDA 深度競技会から 30 ポイント以上を得ていること。

(iii)AIDA チーム世界選手権のジャッジは、AIDA プール競技会から 30 ポイント以上、AIDA 深度競技会から 30 ポイントを得ていること。

13.3.4 審判長。AIDA 世界選手権大会には、マネージングジャッジ（レベル B）以上の審判長を配置しなければならない。前述に加え、

- a) AIDA プール世界選手権では、審判長はプール競技会から最低 100 ポイント、プール世界記録アテンプトの最低 4 レコードポイントを得ていて、過去に 3 つ以上のプールおよび／またはチーム世界選手権でジャッジを務めていること。
- b) AIDA 深度世界選手権では、審判長は深度競技会から 100 ポイント以上、深度世界記録アテンプトの最低 4 レコードポイントを得ていて、過去に 3 つ以上の深度および／またはチーム世界選手権でジャッジを務めていること。
- c) AIDA チーム世界選手権では、審判長は、

(i)プール競技会から最低 100 ポイントおよび深度競技会から最低 100 ポイント、

(ii)深度世界記録アテンプトの最低 4 レコードポイントおよび深度世界記録アテンプトの最低 4 レコードポイントを得ていて、過去に 3 つ以上の AIDA 世界選手権（プール、深度および／またはチーム）でジャッジを務めていること。

14. 世界選手権（ワールドチャンピオンシップ）

14.1 イベントコミッティ

14.1.1 イベントコミッティは、円滑な競技会運営と、競技規則や運営についての質問に答える場として実施される。

14.1.2 イベントコミッティは、以下のメンバーで構成される。

- 審判団
- チームキャプテン
- 大会主催者

競技者は、イベントコミッティに参加する要望は出せるが、直接発言することはできない。キャプテンが競技者の代表として、要望を代弁する。

14.1.3 イベントコミッティは、審判団および主催者によって進行されるその日の特定の議事を遵守する。

14.1.4 イベントコミッティは相互尊重とフェアプレイの精神に則って運営されなければならない。審判団、主催者または他チームのキャプテンに対して非協力的な姿勢のキャプテンや競技者は、イベントコミッティから排除されることがある。

14.1.5 イベントコミッティは、次に掲げる事項を目的として、競技日前日の主催者の設定した時間に開催される。

- 競技結果の発表。
- キャプテン、競技者、スタッフへの、翌日の競技に関する一般事項（日程の再確認、ローカルルール、天候や特別な環境等）の伝達。
- 翌日に開催する競技の OT タイムの配布。

14.2 競技参加標準記録(MINIMA)。競技参加標準記録を設定する場合は、AIDA インターナショナルが（主催者との協議により）設定するものとし、それらが適用される世界選手権開始の6か月以上前に AIDA ナショナルへ通知されなければならない。

14.3 主催者

14.3.1 AIDA インターナショナルに選出された大会主催者は、開催6か月前までに、次に掲げる情報を、AIDA インターナショナルを含むすべての関係者に送付しなければならない。

- 大会に適用される全ての規則
- 競技会概要（開催期日、イベントコミッティ、大会参加費等）
- 使用施設、日時、宿泊場所、偶発責任等が記載された競技会実施要項

- 競技者、ジャッジ、観衆の安全のための使用される設備が記載された文書
- 緊急時の避難救助手順が記載された文書
- 収支予測とスポンサーの詳細
- 競技会の進行、運営に関するすべての文書
- 代替の会場となる場所の図
- メディアに関する詳細計画と、大会主催組織のスタッフの名前

14.3.2 大会主催者は、開催 5 か月前までに、競技会に関する詳細情報を告知する専用のウェブサイトを、英語表記で開設しなければならない。具体的な内容は次のとおり。

- AIDA ロゴを使用したウェブサイトと公式の競技会名
- 競技開催地の案内図
- AIDA インターナショナル競技規則
- 詳細スケジュール
- AIDA インターナショナルへの登録ページ
- 主催者問合せ先／アドレス
- 宿泊施設（ホテル、空港）
- 競技会場付近の概要情報
- レンタカー／船の情報
- スクーバダイビングやフリーダイビングに関する、その国特有の法規則
- メディアに対する情報（連絡先、水中映像写真の入手の可否等）

14.3.3 AIDA インターナショナルは、開催 2 か月前までにジャッジの立候補を受け付け、検討を経て、審判団を編成しなければならない。大会主催者は、チームキャプテンに審判団の構成について競技会初日に通達するものとする。大会主催者は、審判団の開催地までの交通費および宿泊経費、食事代を負担するものとする。各ジャッジには自室が提供される（ただし、他のジャッジまたは自分のパートナーと同室になることを了承するものとする）。交通費は大会主催者より前払いにて支払われるものとし、移動に関する書類は、AIDA インターナショナル理事会により審判団の選出がなされてから、遅くとも 10 日以内に使用できるものとする。主催者は、AIDA インターナショナルに対し、（適用可能であれば）審判団に同じ大陸の国のジャッジを、50%を目安に選出するよう依頼できる。

14.3.4 主催者は、全ての必要な施設／設備を審判団が自由に使えるようにしておかなければならない。

14.3.5 主催者は、審判団がビデオをチェックするための常設のエリア（施設／設備）を確保しなければならない。

14.3.6 大会全体の責任は、AIDA インターナショナルや審判団ではなく、大会主催者が負う。AIDA インターナショナルおよび審判団は、競技者の安全に関する責任を負わないものとする。

14.3.7 イベントコミッティは、競技会の前日に行われるものとする。主催者は、その席において、チームキャプテンに当該競技のスタートリストを配布しなければならない。

14.3.8 主催者は、大会初日（開始日）に、競技者、キャプテン、主催者、審判団、メディア、セーフティスクーバー、フリーダーバー、医療・救急スタッフによる情報共有化のためのミーティングを開催しなければならない。このミーティングを通じ、主催者は、大会の詳細情報、特にイベントコミッティの開催スケジュールおよび競技結果発表の日時について説明する。

14.3.9 大会主催者は、報道関係者がトレーニング日および競技日に水中撮影（ビデオあるいはスチール）をするために、水に入れるよう配慮し、施設を用意しなければならない。

14.3.10 大会主催者は、競技者が記入するための申告用紙を用意する。

14.3.11 AIDA インターナショナル理事会により指名された委員会は、（一人の AIDA からの代表に対して）主催者の費用で、競技会の 2 か月前までに以下に掲げる事項について、主催者と確認する。

- 宿泊、スケジュール、資材調達などが計画どおりに進んでいるか
- セーフティーフリーダイバー/スクーバダイバーのリーダーと共にイベント全体の安全管理の準備ができていないか
- 施設とその管理状況
- 収支予測とスポンサーの詳細
- メディアに関する詳細計画と、メディア担当スタッフの決定

14.3.12 この委員会は、1 名以上の審判団のメンバー（または AIDA インターナショナル委員会に指名されたその他の者）から成り、問題を整理し、必要な解決策を見つけるために主催者と緊密に連携をとりながら、効率的な組織運営を目指すものとする。この委員会は、AIDA インターナショナル理事会へ直接報告する。

14.3.13 審判長と副審判長、または 2 名の指名されたジャッジは、公式アクティビティの開始日（大会初日）の 3 日前までには現地に到着していなければならない。

14.3.14 大会主催者は、自国の然るべき機関、または AIDA インターナショナルに依頼し、ドーピングテストを実施することが義務付けられる。主催者は、これらの手続きと試験（キットを含む）の費用を支払うものとする。競技者が選ばれる条件は、審判団の裁量にゆだねられる。ただし、各種目の優勝者、および世界記録を上回った競技者は、男女ともに必ずテストを受けるものとする。また、一般に、主催者は全ての 1 位と 2 位の競技者と、競技日ごとにランダムに選択された 2 人の競技者を検査する準備をしなければならない。

14.3.15 大会主催者は、各種目とも1名以上の「オープナー」を設けることが望ましい。審判団は、セーフティダイバーまたは有能なフリーダイバーの中から「オープナー」を指名することができる。「オープナー」はそれぞれの能力の範囲内で、競技ゾーンを公式に確認し、主催者の慣らしを行う。「オープナー」は競技者と同条件で試技をすることになるが、必ずしも競技者でなくともよい。決勝と予選は、同じ日に開催されても別の大会として見なされ、したがって、それぞれでオープナーを設ける。決勝に進出していない予選出場者が、決勝の「オープナー」として試技をすることは認められる。「オープナー」としての記録は、世界記録としては認められない。

14.3.16 大会主催者は、すべての競技者のIDナンバーを設定する。競技者は競技中必ずIDナンバーが明確に分かるようにしなければならない。IDナンバーのリストは、報道関係者とキャプテンに配布される

14.3.17 大会主催者は、セーフティダイバー、ジャッジおよびその他オフィシャルスタッフ全員に対して競技中も視認しやすいIDシステムを提供しなければならない。

14.3.18 公式深度計は、正確な測定のため、競技が始まる前までに測定済みのロープで確認調整されなければならない。

14.4 雑則

14.4.1 主催者または競技者のスポンサーに関連する制限事項によって、大会運営に支障があってはならない。

14.4.2 イベントコミッティでは、公認メディアの人数と位置について明確にしなければならない。AIDAに指定されたカメラマンおよび/またはビデオグラファーは、全てのメディアゾーンおよび深度競技用の全ての競技エリアへ立ち入ることができる。（当該者は競技の進行に干渉してはならない）

14.4.3 AIDA インターナショナルおよび大会主催者は、競技者が競技規則を遵守しないために生じた事故について責任を負わない。

14.4.4 現競技規則は、世界選手権開催の3か月前以降は変更しないものとする。

14.4.5 競技規則において明示されていない事項については、ジャッジのみが判断を下すことができる。

14.5 スタートの最小インターバル。AIDA世界選手権の深度競技では、競技の最短インターバルは9分（100m以上の潜水は10分が推奨される）なければならない。ただし、80mに満たない潜水の最短インターバルは8分とし、50m未満の潜水での最短インターバルは7分とする。

用語集

AIDA カレンダー : AIDA のウェブサイトには様々な目的のカレンダーが掲載されている。競技、記録アテンプト、インストラクターコース、ジャッジコース。これらのカレンダーは以下に掲載されている。

CARS : 競技会発表およびランキングシステム。最新の AIDA 競技会と記録アテンプトデータが蓄積されたオンラインアプリケーション。以下の二つで構成されている。

- a) 競技会の発表 :
<http://cars.aidainternational.org/calendar/announce-competition>
- b) ランキング (すなわち結果) :
<http://ranking.aidainternational.org/>

CNF : コンスタントウエイト・ウィズアウトフィン :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>

CWT : コンスタントウエイト・ウィズフィン :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>

DNF : ダイナミック・ウィズアウトフィン :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>

DYN : ダイナミック・ウィズフィン :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>

FIM : フリーイマージョン :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>

IOP : 本 AIDA ジャッジ・インターナルオペレーションと手順

JOS : ジャッジオンラインシステム。最新の AIDA ジャッジ情報が蓄積されているオンラインアプリケーション。AIDA のウェブサイト <http://judges.aidainternational.org> にある。

STA : スタティック :
<http://aidainternational.org/competitive/disciplines>